



国際福祉機器展  
50年のあゆみ

### III

H.C.R.第41回～第50回  
この10年の軌動

# 欧州の認知症対策と 日本のオレンジプラン5か年計画の 推進

## 概括

2014(平成26)年、わが国は「障害者権利条約」に批准した。いっそうの共生社会の実現に向けて大きく動くなか、第41回国際福祉機器展を10月1日(水)から3日(金)の3日間にわたって開催した。出展社数は国内企業が前年とほぼ同数の584社となった。

来場者数は前年よりも6,607人増加して127,651人にのぼり、分類別では、一般が31%(前年比1%減)で最も多く、福祉施設16%(同増減なし)、販売業15%(同1%増)、在宅サービス11%(同増減なし)、製造業10%(同増減なし)となり、前年度の来場者の内訳順・割合とほぼ同様という結果となった。

毎年行っている15回出展感謝状の対象となったのは12社(海外1社、国内11社)であった。

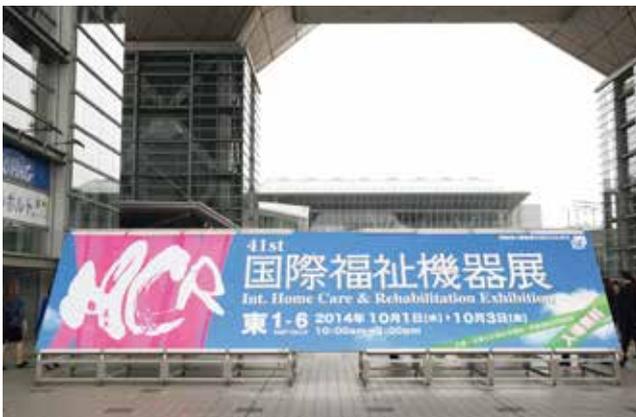
国際シンポジウムでは、英国から専門の研究者を招き、「ヨーロッパ諸国の認知症政策の現状を踏まえ、課題に挑む～認知症への理解拡大と日本の



齋藤十朗全社協会長 開会挨拶

支援活動の充実のために」をテーマとして考察を行った。会場となった東京ビッグサイト会議棟6階会議室には301人の参加者が集った。

このほかに、「H.C.R.セミナー」には延べ3,681人が、「はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー」には延べ2,146人が、「高齢者むけの手軽な日々の食事～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ」には790名が、「アルテク講座2014～身の回りにあるテクノロジー(アルテク)で創る豊かで楽しい生活」には583人がそれぞれ参加した。



H.C.R.2014開催



H.C.R.海外コーディネーターを交えてのオープニングセレモニー

さらに、「福祉機器開発最前線」では13点を紹介し、デモンストレーション時には述べ3,462名が参加した。

なお、インターネットホームページにおいて、福祉機器ガイドブックにも掲載した最新福祉機器約1,800点の情報を発信し、年間約1,614万件以上のページビューがあった。

さらに、H.C.R.2014会期前日、初日、2日目の3回にわたり、ホームページをつうじて「ご案内ミニ動画」を配信し、会場の模様、主な新製品、翌日のイベントなどを紹介して情報提供を行った。

## H.C.R.2014 出展

- (1) 会期：2014年10月1日(水)～3日(金)
- (2) 会場：東京国際展示場「東京ビッグサイト」  
東展示ホール1～6
- (3) 主催：全国社会福祉協議会、  
保健福祉広報協会
- (4) 来場者数：127,651人
- (5) 出展社数：584社

(海外 54社：アメリカ9、オーストラリア1、カナダ2、イギリス4、ドイツ4、ノルウェー1、スウェーデン6、デンマーク6、メキシコ1、フランス2、オランダ1、台湾14、韓国1、中国1、トルコ1 及び国内530社)

※初日開催の出展社関係交流会には、トルコ大使館メテ・オズバラバン商務参事官のご臨席をいただいた。

### 15回出展感謝状贈呈企業(海外1社 国内11社)

1	アキレス(株)
2	Etac AB (Sweden)
3	(株)島製作所
4	住宅防火対策推進協議会
5	(株)シロクマ
6	シンテックス(株)
7	(株)スギヤス
8	(株)スワニー
9	トーエイライト(株)
10	(株)ニッシン自動車工業

11	ピーエス(株)
12	(株)ムーンスター

※社名五十音順/アルファベット順

## 特別企画

### ヨーロッパ諸国の認知症政策をテーマに国際シンポ

認知症については欧州各国で国家戦略が策定され、また2013年12月には英国で「G8認知症サミット」が開催されるなど、世界的な共通課題となっているうえ、わが国においても「認知症施策5か年計画(オレンジプラン)」をはじめ、取り組みの加速化が図られてきていた。

そこで、英国から専門の研究者を招き、EU各国のなかでも認知症施策への先進的な取り組み経験を有する国々の特徴、現状や課題などを解説いただくとともに、わが国の認知症ケアの第一線で活躍されている講師とのディスカッションなどをつうじて日本の取り組みや課題と対比しながら学ぶことにより、わが国の認知症施策と支援活動の充実に資することをめざしてシンポジウムを開催した。

日 時：10月2日(木) 13:00～16:00

テーマ：ヨーロッパ諸国の認知症政策の現状を踏まえ、課題に挑む～認知症への理解拡大と日本の支援活動の充実のために～



認知症施策と支援をテーマとした国際シンポジウム会場

講師：George W. Leeson (ジョージ・W・リーソン) 氏 (オックスフォード大学高齢者研究所副所長、同大学ケロッグカレッジ上級研究員、コペンハーゲン大学客員講師)  
服部安子 氏 (社会福祉法人浴風会浴風会ケアスクール校長)

チューター：

近藤純五郎 氏 (一般社団法人医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、元厚生労働事務次官)



ジョージ・W・リーソン氏  
(英国)



服部安子氏



近藤純五郎氏

## 障害のある人等の旅行に役立つ 用品紹介

主催者による特別企画として第37回H.C.R.2010年より継続実施している「高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー」では「旅を楽しむ「10のコツ!」と便利なグッズ展」をテーマに、高齢者や障害のある方が楽しく旅をするために役立つコツ紹介と関係する約60点のグッズを集め、出展社の製品から選んだ「旅に役立つグッズ」を準備、移動、会話、食事や温泉など旅のシーンごとに展示した。(企画・監修/共用品推進機構、運営協力/NTTクラリティ、高齢社)

## 子どもの車いす試乗を含めた 「子ども広場」

第32回H.C.R.2005年より継続実施している障害児のための「子ども広場」では、子ども向けの車いすや日常生活用品に加えて学習機器やコミュニケーション機器など親子が参加して試せる子ども向けの福祉機器を総合的に展示した。あわせて、同広場では専門家による療育相談や保育士による子育て相談を実施した。さらに、新企画として「家のなかはキケンがいっぱい! 発達障害のある子どもの安全対策ひと工夫コーナー」にて相談を実施するとともに、「子ども広場で広げよう!! 子どもの車いすトレーニング編」にて車いすの試乗やプレゼンテーションを実施した。

### 1. 子ども用福祉機器の展示

学習機器・コミュニケーション機器、車いす、バギー・歩行器、食器、衣類、いす・カーシート等約80点

### 2. 障害のある子どもに関する相談：福祉機器相談、療育相談 (無料)

### 3. ひとやすみコーナー (休憩)：保育士の常駐により子育て相談を実施

### 4. 家のなかはキケンがいっぱい! 発達障害のある子どもの安全対策ひと工夫コーナーにて相談を実施

### 5. 子ども広場で広げよう!! 子どもの車いすトレーニング編にて車いすの試乗やプレゼンテーションを実施

(協力：横浜市総合リハビリテーションセンター、日本リハビリテーション工学協会)



子ども広場での相談実施

## 省庁補助事業製品を中心にしたの 福祉開発最前線を展開

第34回H.C.R.2007年より継続実施している「福祉機器開発最前線」には、経済産業省のロボット介護機器開発・導入促進事業の対象製品10点、厚生労働省の障害者自立支援機器等開発促進事業の対象製品2点を含む計13点が展示された。

- ・ 字幕付き電話(字幕電話)((株)アイセック・ジャパン)
- ・ 分身ロボット”OriHime”((株)オリィ研究所)
- ・ 楽チン見守り「ラクミ～マ」((株)スーパーリージョナル)
- ・ レーダーライト((株)CQ-Sネット)
- ・ 介護用HAL®(腰補助タイプ)(CYBERDYNE(株))
- ・ ロボット介護機器評価ツール(ロボット介護機器PJ基準策定・評価事業コンソーシアム 代表:(独)産業技術総合研究所)
- ・ カメラ組込み型画像認識システムを用いた見守りプラットフォーム((株)レイトロン)



福祉機器開発最前線

- ・ みまもり支援システム((株)エイビス)
- ・ 電動歩行アシストカート(RT.ワークス(株))
- ・ 電動ロータ「バンビ」(段差および凹凸対応の歩行支援器)((株)今仙技術研究所)
- ・ 移乗介助用サポートロボット(富士機械製造(株))
- ・ 〈居室設置型移動式水洗便器〉ベッドサイド水洗トイレ(TOTO(株))
- ・ 〈浴槽設置型入浴支援機器〉バスリフ(TOTO(株))

※社名五十音順

## H.C.R. セミナーにて福祉施設の 環境づくり講座も

### 1. 「高齢者の住まいについて～基礎知識と選び方」

講師：灰藤 誠 氏(公益社団法人全国有料老人ホーム協会理事・事務局長)

### 2. 「腰痛にならないための基本技術を学ぶ～ボディメカニクスの理解と活用」

講師：青柳佳子 氏(目白大学短期大学部生活科学科准教授)



腰痛対策をテーマにしたH.C.R.セミナー

### 3. 「福祉施設における感染症の知識と対応～知っておきたい感染症対策のポイント」

講師：小坂 健 氏(東北大学大学院歯学研究科副研究科長)

### 4. 「社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用～高齢者の生活の質の向上から野生動物の皮革の利用まで」

## 基調講演

「社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用」

炭谷 茂 氏 (社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会委員長、社会福祉法人恩賜財団済生会理事長、一般財団法人地球・人間環境フォーラム理事長)

## 事例発表①

「老人施設入所者の生活の質を高める野菜栽培」  
永井伸一 氏 (獨協医科大学名誉教授)

## 事例発表②

「野生動物の皮革を有効活用することで広げる障害者の就労機会」

田中正幸 氏 (岡山県セルプセンター事務局長)

## 事例発表③

「MATAGIプロジェクトの目指す障害者の働く場づくり」

山口明宏 氏 (皮なめしの老舗・山口産業専務取締役、MATAGIプロジェクト事務局長)

司会進行：社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会



炭谷 茂 氏の基調講演

## 5. はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー

## (1) 住宅改修編

講師：橋本美芽 氏 (首都大学東京健康福祉学部准教授)

## (2) トイレ、排泄用品編

講師：牧野美奈子 氏 (NPO 法人日本コンチネンス協会)

## (3) 入浴機器編

講師：加島 守 氏 (高齢者生活福祉研究所所長、理学療法士)

## (4) ベッド編

講師：市川 洌 氏 (福祉技術研究所 (株) 代表取締役)

## (5) リフト等移乗用品編

講師：市川 洌 氏 (福祉技術研究所 (株) 代表取締役)

## (6) 車いす編

講師：堀家京子 氏 (財団法人武蔵野市福祉公社、作業療法士)

## (7) 杖・歩行器等補助用品編

講師：加島 守 氏 (高齢者生活福祉研究所所長、理学療法士)

## (8) 福祉車両編

講師：熊倉良雄 氏 (国立障害者リハビリテーションセンター更生訓練所自動車訓練室)

岩崎 洋 氏 (国立障害者リハビリテーションセンター病院リハビリテーション部副理学療法士長)

## (9) 自助具編

講師：岡田英志 氏 (ヒューマン代表)

## (10) コミュニケーション機器編

講師：中邑賢龍 氏 (東京大学先端科学技術研究センター教授)

## 6. 「高齢者むけの手軽な日々の食事～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ」

講師：今寿賀子 氏 (虎の門病院栄養部部長)

押田京子 氏 (虎の門病院栄養部副部長)

## 7. 「福祉施設の実践事例発表～役立つ活かせる実践研究、工夫とアイデア」

## ■ A会場

① 通所介護における介護予防の検証 (社会福祉法人清和園デイサービスセンター清和園)

② 褥瘡0 (ゼロ) 26年間の実践～実現する為の3つの指標 (社会福祉法人みささぎ会藤井)

寺特別養護老人ホーム)

- ③ ポールで楽しむウォーキング講座の実践と成果(大田区地域包括支援センター入新井)
- ④ 認知症ケア～バリデーション療法を通して行動の原点を探る～(社会福祉法人聖徳園特別養護老人ホーム ひらかた聖徳園)
- ⑤ ハートピア堺式自立支援と認知症ケア、そして選ばれるデイサービス(社会福祉法人堺福社会ハートピア堺デイサービスセンター)

司会進行：湯川智美 氏(社会福祉法人六親会 常務理事)

#### ■B会場

- ① 肢体不自由児の側弯の予防・改善～特別支援学校における取組み(社会福祉法人あけぼの福社会元東京都立特別支援学校)
- ② 社会貢献を考える～エーデル土山のCSR活動(社会福祉法人あいの土山福社会特別養護老人ホームエーデル土山)
- ③ 地域の方々と施設利用者の日々の交流を創出するテラス活動(社会福祉法人健友会みなみかぜ・燦)
- ④ 福祉機器を使って・さらば腰痛(社会福祉法人寿山苑特別養護老人ホーム寿山苑)
- ⑤ やりがいのある職場を目指して(社会福祉法人聖徳会大阪老人ホームうえだ)

司会進行：久木元司 氏(社会福祉法人常盤会 理事長)

### 身近なテクノロジー活用講座も好評

「アルテク講座2014 ～身の回りにおけるテクノロジー (アルテク) で創る豊かで楽しい生活」

第36回H.C.R.2009年より継続実施している同企画は、中邑賢龍氏(東京大学先端科学技術研究センター教授)のコーディネートや講義等により下記のプログラムを実施し、延べ583名の参加を得た。

- (1) スマホやタブレットをコミュニケーションエイドに変える～アルテクを用いた言語障害のある人の生活支援



H.C.R.2014会場内の様子

- (2) 身の回りにおけるテクノロジー(アルテク)が支援技術に変わる～支援技術を使いこなすための障害理解
- (3) アルテクを読み書きなど学びのツールに変える～アルテクを用いた発達障害や認知障害のある人の生活支援
- (4) スマホやタブレットを視覚障害の福祉機器に変えるアプリ～アルテクを用いた視覚障害のある人の生活支援
- (5) スマホやタブレットのアクセシビリティ～肢体不自由の人がスマホやタブレットを使いこなす
- (6) Windowsパソコンのアクセシビリティと応用～アルテクを用いた障害のある人の生活支援
- (7) 障害者差別解消法とアルテクの意味～合理的配慮の1つとしてのアルテク
- (8) 障害者雇用とアルテク～障害者雇用現場でのアルテク活用の実際
- (9) ゲーム用カメラを生活支援ツールに変える～重度肢体不自由や重複障害のある人の生活支援



多彩な機器紹介も兼ねたアルテク講座

# ロボット新戦略打ち出される

## 概括

2015（平成27）年1月に政府のロボット革命実現会議が「ロボット新戦略」をとりまとめ、介護・福祉分野においてもロボット技術をはじめとする機器開発等が重点分野として位置づけられ、関係省庁一体となって取り組むこととされた。さらに「日本再興戦略改訂2015」においても先端ロボット技術によるユニバーサル未来社会の実現について掲げられた。

さらに同年9月、国連サミットで国際目標としてのSDGs=持続可能な開発目標が採択された。これは「誰ひとり取り残さない」をキーワードとするものであり、H.C.R.がめざしてきた高齢者・障害者の生活自立と社会参加の促進のための展示会という理念と合致するものであった。

そのような状況のなか、10月7日（水）から9日（金）の3日間にわたる第42回国際福祉機器展は、

出展社数522社を得て開催された。

来場者数は119,075人であり、分類別では、一般が30%（前年比1%減）で最も多く、販売業16%（同1%増）、福祉施設15%（同1%減）、在宅サービス11%（同増減なし）、製造業11%（同1%増）の順となり、企業関係者の来場者がやや増加した。

15回出展感謝状の対象となったのは18社（海外1社、国内17社）であった。

国際シンポジウムでは、ドイツと米国から専門の研究者を招き、「介護サービス従事者をいかに確保するか？～ドイツ、米国、日本の比較から今後の課題とその対策を考える」をテーマとして、介護サービス従事者の将来に向けた確保の必要性について考察を行った。会場となった東京ビッグサイト会議棟6階会議室には253人の参加者が集った。

このほかに、「はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー」には延べ2,378人が、「身の回り



H.C.R.2015開幕



高井康行保健福祉広報協会理事長

にあるテクノロジー(アルテク)で創る豊かで楽しい生活」には589人がそれぞれ参加し、前年度に比べてのセミナー・講座企画への参加者増につながった。

さらに、展示会に係る情報取得の利便性を高めるため、スマートフォンにて会場案内図や国際シンポジウム、H.C.R.セミナーの情報を閲覧できるHCRアプリを導入し、来場者等に無料で提供した。

## H.C.R.2015出展

- (1) 会期：2015年10月7日(水)～9日(金)
- (2) 会場：東京国際展示場「東京ビッグサイト」  
東展示ホール1～6
- (3) 主催：全国社会福祉協議会  
保健福祉広報協会
- (4) 来場者数：119,075人
- (5) 出展社数：522社  
(海外 61社：アメリカ9、カナダ2、イギリス5、ドイツ6、オーストラリア1、スウェーデン6、デンマーク6、スイス1、メキシコ1、フランス2、オランダ1、台湾15、中国5、トルコ1 及び国内461社)

### 15回出展感謝状贈呈企業(海外1社 国内17社)

1	LASAL A/S (Denmark)
2	(株)アサヒコーポレーション
3	(有)移動サポート
4	(株)エクセルエンジニアリング
5	(公財)岡山県産業振興財団
6	クリスタル産業(株)
7	広洋産業(株)
8	精工技研(株)
9	ダブル技研(株)
10	(株)ダンロップホームプロダクツ
11	中村ブレイス(株)
12	日本アサヒ機工(株)
13	日本アサヒ機工販売(株)
14	(有)フセ企画

15	(株)プラッツ
16	(株)マリアンヌ製靴
17	(株)山口安製作所
18	(株)ワイズマン

※社名五十音順/アルファベット順

## 特別企画

### 介護サービス従事者の確保をテーマに国際シンポジウムを実施

介護サービス従事者の将来に向けた人材確保の必要性が高まっているなか、特に都市部においては人材不足が恒常化しているなかで、経済連携協定(EPA)に基づいた一部のアジア諸国からの介護福祉士候補者の受入れも施行から一定の期間を経て、今後のあり方や課題についてさまざまな意見が出されていた。

そこで、わが国が介護保険制度導入の参考としたドイツ、及び、移民労働者が多い米国の実情を理解し、今後のわが国の対応策について考える場とするためシンポジウムを開催した。

日時：10月8日(木) 13:00～16:40

テーマ：「介護サービス従事者をいかに確保するか?～ドイツ、米国、日本の比較から今後の課題とその対策を考える」

シンポジスト：

#### 【ドイツ、アメリカの状況報告等】

ドイツ/グリット・ブレセケ(Dr. Grit Braeseke)氏(ヨーロッパ・ヘルスケア・リサーチ&社会経済研究所サイエンス分野担当部長)

アメリカ/ロビン・ストーン(Dr. Robyn Stone)氏(米国リーディング・エイジ・センター事務局長、元ホワイトハウス副次官補佐(障害者・高齢者・介護政策担当)、元米国保健福祉省次官補代行)

#### 【日本の状況報告等】

施設現場の立場から/湯川智美氏(社

会福祉法人六親会常務理事)  
 研究者の立場から／塚田典子 氏(日本  
 大学商学部教授)

チューター：

近藤純五郎 氏(一般社団法人医療経済研  
 究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、  
 元厚生労働事務次官)



グリット・プレセケ氏  
 (ドイツ)



ロビン・ストーン氏  
 (USA)



湯川智美氏



塚田典子氏

## 福祉機器開発最前線として 見守りセンサー機器が増傾向

「福祉機器開発最前線」には、経済産業省のロ  
 ボット介護機器開発・導入促進事業の対象製品  
 等12点が展示された。

- ・ ロボットアシストウォーカー RT.1 (RT.ワークス  
 (株))
- ・ Neos+Care (ネオスケア／3次元電子マット式見  
 守りシステム) (NKワークス(株))
- ・ シルエット見守りセンサ(キング通信工業(株))
- ・ ニンニンPepper ((株) MTヘルスケアデザイン  
 研究所／フューブライト・コミュニケーションズ  
 (株) ほか)
- ・ ロボット技術を用いた義肢装具 ((株) Xiborg /  
 (株) ソニーコンピュータサイエンス研究所)



見守りセンサー機器が増えてきた福祉機器開発最前線



デンマークからの最新福祉機器紹介

- ・ OHaNAS (オハナス) ((株) タカラトミー)
- ・ 改良型筋電義手(兵庫県立リハビリテーション中  
 央病院ロボットリハビリテーションセンター・兵  
 庫県立福祉のまちづくり研究所)
- ・ 移乗サポートロボット T1 (富士機械製造(株))
- ・ 外出支援アシスト歩行車(ナブテスコ(株))
- ・ ロボット便座 ((株) 日本アシスト)
- ・ 独居高齢者の見守り・転倒検知システム ((株) ネット  
 ワーク21)
- ・ OPUS 5 医療・介護ベッド (Danish  
 Technological Institute / K.R. Hospitalsudstyr  
 A/S (デンマーク))

※社名五十音順

## 「子ども広場」で住宅改造相談開始

障害のある子どものための新企画として住宅  
 改造に関する相談企画「現在も未来も大切です！  
 子どもの住宅改造(肢体不自由・発達障害)相談  
 コーナー」を設置し相談を実施した。



子ども広場の一角での車いす試乗説明

## 「高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー～いつまでも元気に働く「10のコツ！」展」の設置

多くの「働く高齢者」からのアンケート結果に基づき企画した。その結果から、いつまでも元気に働くためのコツを10か条にまとめ、「健康」「身だしなみ」「仕事」の3つのシーンに分けて、約60点のグッズを展示した。

(企画・監修/共用品推進機構、運営協力/高齢社、かじワ、ブライト)



いつまでも元気に働く「10のコツ！」展の様子

## ユニバーサルなまちづくり等を含むH.C.R.セミナー

### 1. 福祉機器、福祉サービス等利用者・家族セミナー（一般向け）

- (1)「高齢者の住まいについて～基礎知識と選び方」

講師：小瀬有明子氏(NPO法人シニアライフ情報センター理事)

- (2)「一般家庭における介護で腰痛にならないための基本技術～ボディメカニクスの理解と活用」

講師：青柳佳子氏(浦和大学短期大学部介護福祉科特任教授)

- (3)はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー

当年より、コミュニケーション機器編の講師を巖淵守氏(東京大学先端科学技術研究センター准教授)に務めていただくことになった。

- (4)「高齢者むけの手軽な日々の食事～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ」

講師：今寿賀子氏(虎の門病院栄養部部長)

押田京子氏(虎の門病院栄養部副部長)



高齢者むけの料理講座

### 2. 福祉施設・在宅サービス役職員向け

- (1)「福祉施設における感染症の知識と対応～知っておきたい感染症対策のポイント」

講師：小坂健氏(東北大学大学院歯学研究科副研究科長)

- (2)「ユニバーサルでエコなまちの創生～2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて」

基調講演

講師：炭谷茂氏(社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会委員長、社会福祉法人恩賜財団済生会理事長)

事例報告

中村太郎氏(社会福祉法人太陽の家理事)

長)

水木伸明 氏 (アルハイテック (株) 常務取締役)

(3)「福祉施設の実践事例発表～役立つ活かせる実践研究、工夫とアイデア」

■ A会場

- ① 口腔ケアの取り組み (社会福祉法人六親会特別養護老人ホームプレーグ本塾)
- ② 実践的転倒予防トレーニング (社会福祉法人ふたば福祉会高齢者総合福祉施設ウィローふたば ふたばデイサービスセンター)
- ③ 命の最後を安心して迎える為の支援～大好きな家族と住み慣れた家で～ (社会福祉法人尚生会グリーンハウスともべ)
- ④ コミュニケーションと食支援の実践～言語聴覚士15年の取り組み～ (社会福祉法人憲心会障害者支援施設只越荘)
- ⑤ QOL向上への取り組み～一人暮らしのいきいきライフ～ (社会福祉法人秀幸福祉会庄栄エルダーセンターデイサービス)

司会進行：眞下宗司 氏 (社会福祉法人誠光会身体障害者療護施設誠光荘施設長)



眞下宗司 氏による進行と助言

■ B会場

- ① エーデル土山のBCP計画&施設管理室の取組 (社会福祉法人あいの土山福祉会エーデル土山)

- ② 社会福祉懇談会における日本経営品質賞勉強会の取り組み (社会福祉懇談会経営品質向上活動委員会)
- ③ 利用者の尊厳と権利が守られる暮らしの実現を目指して～全社の取り組みから～ (社会福祉法人千葉県福祉援護会ローゼンヴィラ藤原)
- ④ 介護職員の腰痛管理で入居者により安全で安心した介護サービスが提供できる (社会福祉法人玉美福祉会高齢者ケアセンター向日葵)
- ⑤ 中間的就労 (ユニバーサル就労) の実践 (社会福祉法人みささぎ会特別養護老人ホームつどうホール)

司会進行：久木元司 氏 (社会福祉法人常盤会理事長)



久木元司 氏による進行と助言

### 3. 企業関係者向け

- (1)「障害者に対する差別の禁止と合理的配慮～障害者雇用促進法の改正および障害者差別解消法の制定を受けて」

講師：長谷川珠子 氏 (福島大学行政政策学類・法学専攻准教授)

### アルテック講座の継続

「アルテック講座2015～身の回りにおけるテクノロジー (アルテック) で創る豊かで楽しい生活」

巖淵 守 氏 (東京大学先端科学技術研究センター准教授) 他を講師とし、計9講座を実施した。

# 地域共生社会の実現を 重要施策として閣議決定！

## 概括

2016（平成28）年に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」において、支え手と受け手側に分かれることのない地域共生社会の実現をめざすことが政策として打ち出された。さらに、同年4月に「障害者差別解消法」が施行され、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現を果たしていくとされた。

また、内閣府の第5期科学技術基本計画において、わが国が目指すべき未来社会の姿として「Society 5.0」が提唱された。これはAI、IoT化といったデジタル化の進展による全体最適の結果として、社会課題の解決や新たな価値創造をもたらす可能性を指摘するものであった。同年12月に政府が発表した「新しい経済政策パッケージ」では、「単なる効率化・省力化にとどまることなく、「Society 5.0」時代のまったく新しい付加価値を創出することによって、生産性を押し上げる大きな

可能性を秘めている」と言及されていた。

さらに「障害者雇用促進法」改正、また2020年に日本でのパラリンピックが開催決定されるといった社会状況の中、第43回国際福祉機器展を10月12日（水）から14日（金）の3日間にわたって開催した。出展社は前年より微増の527社となった。

来場者数は112,752人であり、分類別では、一般が29%（前年比1%減）で最も多く、福祉施設17%（同2%増）、販売業16%（同増減なし）、在宅サービス11%（同増減なし）、製造業9%（同2%減）の順となり、福祉施設関係者の割合がやや増加する結果となった。

第21回H.C.R.以来毎年行っている15回出展感謝状の対象となったのは20社（国内20社、海外は該当なし）であった。

国際シンポジウムでは、同年の障害者の権利擁護等の動きがいつそう高まるなか、デンマークから専門の研究者を招き、「障害者の権利の擁護とさらなる社会参加の促進のために～ノーマライ



H.C.R.2016開幕



11万人超の来場者を迎えた会場内の様子

ゼーションのこれまでとこれから」をテーマとして考察を行った。

このほかに、「H.C.R.セミナー」には延べ3,312人が参加し、特に「高齢者むけの手軽な日々の食事～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ」には昨年度の倍以上となる984人が参加した。

## H.C.R.2016 出展

- (1) 会期：2016年10月12日(水)～14日(金)
- (2) 会場：東京国際展示場「東京ビッグサイト」  
東展示ホール1～6
- (3) 主催：全国社会福祉協議会  
保健福祉広報協会
- (4) 来場者数：112,752人
- (5) 出展社数：527社  
(海外 70社：アメリカ11、カナダ1、イギリス6、ドイツ7、ノルウェー1、スウェーデン7、デンマーク8、スイス1、メキシコ1、フランス2、イタリア1、オランダ2、オーストラリア1、台湾14、韓国1、中国5、トルコ1 及び国内457社)

※初日開催の出展社関係交流会には、デンマーク社会福祉・内務省障害者局長ハナ・スティグ・アンダーセン氏、デンマーク大使館上席商務官滝沢ピーター氏にご臨席いただいた。

15回出展感謝状贈呈企業  
(国内20社 ※海外企業は該当なし)

1	アイシン精機(株)
2	(株)ウェルパートナーズ
3	(株)エースシステム
4	NDソフトウェア(株)
5	M&Rる～む
6	広和(株)
7	(株)サンコー
8	シーユーピー(株)
9	新光産業(株)
10	(株)諏訪田製作所
11	セコム(株)
12	(株)タイカ

13	竹中エンジニアリング(株) ヘルスケア事業部
14	(公財)東京都福祉保健財団
15	(株)東経システム
16	(株)東和モータース販売
17	(株)日本コンピュータコンサルタント
18	富士通(株)
19	(株)富士データシステム
10	マツ六(株)

※社名五十音順/アルファベット順

## 特別企画

### 障害者の権利擁護等をめぐる 最新動向をテーマに国際シンポジウム

「障害者差別解消法」制定や「障害者雇用促進法」改正、さらに2020年日本でのパラリンピック開催決定といった社会状況の中、デンマークから講師を招き、障害者の権利擁護や社会参加の促進をめぐる変化と最新の動向に関するレポートなどによるシンポジウムを開催し、わが国の今後の関連の取り組みを展望するうえでの考察の場とした。

日時：10月13日(水)13:00～16:00

テーマ：「障害者の権利の擁護とさらなる社会参加の促進のために～ノーマライゼーションのこれまでとこれから」

講師：デンマーク/ハナ・スティグ・アンダーセン氏(デンマーク社会福祉・内務省障害者局長)

日本/末光 茂氏(社会福祉法人旭川荘理事長、川崎医療福祉大学特任教授、医学)



ハナ・スティグ・アンダーセン氏  
(デンマーク)



末光 茂氏

博士)

チューター：

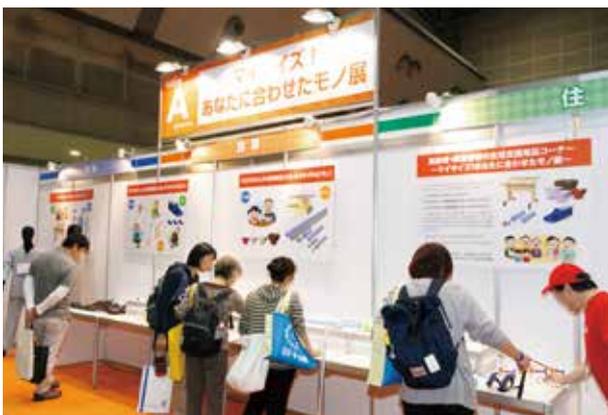
近藤純五郎 氏 (一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、元厚生労働事務次官)

## 一人ひとりに合わせた生活支援用品を

「高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー」では「マイサイズ!あなたに合わせたモノ展」をテーマに、高齢者や障害者の生活に便利な「高さ」「太さ」「大きさ」「明るさ」「重さ」などを調節できる生活支援用品を取りあげ、衣食住に分類して製品を展示した。



自分のサイズに調整可能な用品



マイサイズ製品を探し出すための日常生活支援用品コーナー

## 排泄支援機器を含む福祉機器開発最前線

トレンドとなった排泄支援機器を含む10点を紹介した。

- ・ 排泄介護用品キューレット (アロン化成 (株))

- ・ 健康王国レク for Pepper ((株) エクシング/ソフトバンクロボティクス (株))
- ・ 服薬支援ロボ KR-1000A (クラリオン (株))
- ・ 転倒察知、事故軽減のための寄り添いロボット (サンヨーホームズ (株))
- ・ Mobile Motion Visualizer 鑑 (AKIRA) ((株) システムフレンド)
- ・ 排泄を予知するウェアラブルデバイス DFree (ディーフリー) Triple W Japan (株)
- ・ 排泄支援装置 (兵庫県福祉のまちづくり研究所ロボットリハビリテーションセンター)
- ・ 介護施設向け見守りシステム装置・Mi-Ru (ミール) ((株) ブイ・アール・テクノセンター/ミューキエレックス (株))
- ・ 音声つぶやきによる介護の気づき支援システム (国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学)
- ・ 知的障害のある方の支援ソフト だれでもワークプロ ((株) マイクロブレイン)

※社名五十音順



福祉機器開発最前線

## H.C.R. セミナー

### 1. 福祉機器、福祉サービス等利用者・家族セミナー（一般向け）

#### (1) はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー

従来の10編のうち「コミュニケーション支援機器」編を「福祉に役立つ一般製品」編に変更して実施。講師は巖淵守氏（東京大学先端科学技術研究センター准教授）。



はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー

#### (2) 「高齢者むけの手軽な日々の食事～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ」

#### (3) 「一般家庭の介護で腰痛にならないための基本技術～ボディメカニクスの理解と活用」

講師：青柳佳子氏（浦和大学短期大学部 介護福祉科特任教授）

#### (4) 「介護ロボットの活用で未来を拓く」

講師：五島清国氏（公益財団法人テクノエイド協会企画部長）



自助具相談コーナー

### 2. 福祉施設・在宅サービス役職員向け

#### (1) 「福祉施設の実践事例発表～役立つ活かせる実践研究、工夫とアイデア」

社会福祉法人による「地域における公益的な取組」が、改正社会福祉法により同年4月から法人の責務として位置付けられ、これに関する発表事例を取り入れて実施した。

#### ■ A会場

- ① コミュニケーションロボットで見えてきた介護の未来（社会福祉法人横浜市福祉サービス協会特別養護老人ホーム新鶴見ホーム）
- ② 地域と施設の協働（社会福祉法人六親会）
- ③ 人材確保対策室の取組（社会福祉法人あいの土山福祉会エーデル土山）
- ④ 人的、物的介護手段の融合による“床から抱え上げない”移乗介助“してあげる”介護から“良くする”介護へ（社会福祉法人湘南遊愛会特別養護老人ホームゆうあいの郷）
- ⑤ オランダ研修旅行から学んだこと（社会福祉法人堺福祉会特別養護老人ホームハートピア堺）

司会進行：湯川智美氏（社会福祉法人六親会常務理事）

#### ■ B会場

- ① 「寝たきりにさせない」障がい者施設での10年間の取り組み（社会福祉法人北ひろしま福祉会機能訓練センター）
- ② TEACCHプログラムの手法を活用したアプローチ（社会福祉法人阪神福祉事業団ななくさ育成園）
- ③ BCPの実践（社会福祉法人若竹会）
- ④ 障がい児への理解を深める地域の保育所との交流保育（社会福祉法人肥後自活団大江学園）
- ⑤ 地域の特性を活かした地域貢献活動（社会福祉法人信和会）

司会進行：久木元司 氏 (社会福祉法人常盤会理事長)

- (2)「環境と福祉の統合と社会への定着 ～ 2020年東京大会に向けた取り組み」

基調講演

「パラリンピックが後押しする ソーシャルインクルージョンの進展」

炭谷 茂 氏 (社会福祉法人恩賜財団済生会理事長、一般財団法人地球・人間環境フォーラム理事長)

講演①

崎田裕子 氏 (NPO法人持続可能な社会を作る元気ネット理事長)

講演②

藤井克徳 氏 (日本障害フォーラム幹事会議長、NPO法人日本障害者協議会代表)

- (3)「福祉施設における感染症の知識と対応～知っておきたい感染症対策のポイント」

講師：小坂 健 氏 (東北大学大学院歯学研究科副研究科長)

### 3. 企業関係者向け

- (1)「介護ロボット開発の最新動向と今後の展望～北欧のユーザー・ドリブン・イノベーションからみる普及実現に向けた取り組み」

講師：植村佳代 氏 (株式会社日本政策投資銀行産業調査部副調査役)



介護ロボット開発動向に関するセミナーでの質疑応答

## 被災地応援コーナーの拡充

東日本大震災を機に設置した同コーナーは、同年に発生した熊本地震による被災地の障害者就労支援事業所を含めて支援するため、被害を受けた日本各地の障害者就労支援製品を販売するよう内容を拡充した。



熊本地震被災地事業所の商品も販売

## Webサイト・アプリのリニューアル

H.C.R.Webサイトを平成28年7月にリニューアルし、提供する情報の充実ならびにスマートフォン等携帯端末への対応、H.C.R.2015より導入したスマートフォン用アプリ「HCRアプリ」との連携を強化した。

会期までの2か月間のトップページの訪問数は144,636件で、旧サイトの昨年同時期の訪問数と比較し、1.7倍となった。また、訪問数のうち、スマートフォン等携帯端末からは25,551件となり、旧サイトの2倍以上の訪問を得た。

さらに、本会インターネットホームページにおいて、最新福祉機器約1,700点(福祉機器ガイドブックと同内容)の情報等を発信し、年間約207万件のページビューがあった。

# コミュニケーション支援機器などのICT機器開発の高まり

## 概括

2017（平成29）年9月27日（水）から29日（金）の3日間にわたる第44回国際福祉機器展は、出展社数は前年とほぼ同数の526社となった。

来場者数は前年よりも9,000人近く増加し121,528人にのぼり、分類別では、販売業31%（前年比15%増）が最も多く、一般が29%（同増減なし）、福祉施設11%（同6%減）、製造業9%（同増減なし）、在宅サービス7%（同4%減）の順となり、販売業の来場者が大きく増加した。

15回出展感謝状の対象となったのは7社（海外1社、国内6社）であった。

国際シンポジウムではイギリスから専門の研究者を招き、「高齢者の家族介護の現状とその支援について～ヤングケアラーやダブルケアなどの課題を考える」をテーマとしてわが国の今後の関連の取り組みを展望するうえで考察を行った。



H.C.R.2017開幕

## H.C.R.2017 出展

- (1) 会期：2017年9月27日（水）～29日（金）
- (2) 会場：東京国際展示場「東京ビッグサイト」  
東展示場ホール1～6
- (3) 主催：全国社会福祉協議会  
保健福祉広報協会
- (4) 来場者数：121,528人
- (5) 出展社数：526社

（海外 79社：アメリカ11、カナダ2、イギリス6、ドイツ8、スウェーデン6、フィンランド1、デンマーク14、ニュージーランド1、メキシコ1、フランス2、イタリア2、オーストラリア1、台湾14、韓国4、中国6 及び国内447社）

※初日開催の出展社関係交流会には、デンマーク大使館滝沢ピーター上席商務官、カナダ大使館黒岩克子商務官にご臨席いただいた。

## 15回出展感謝状贈呈企業（海外1社 国内6社）

1	AKROMED FRANCE (France)
2	グンゼ (株)
3	(株) シクロケア
4	(株) シナノ
5	日本介護食品協議会
6	(株) マキテック
7	リナック (株)

※社名五十音順／アルファベット順

## 特別企画

### 介護をめぐる課題を先取りした ヤングケアラー問題をテーマに 国際シンポジウム

老老介護、育児・子育てと介護の両方を担うダブルケア、介護離職、また家族介護の担い手となっているヤングケアラーの問題なども指摘されてきているなか、要介護高齢者等の家族介護と介護者支援の取り組みについて、先駆的な実践を展開しているイギリスから講師を招き、わが国の今後の関連の取り組みの展望について、参加者279人を得て考察を行った。

日 時：9月28日(木) 13:00～16:00

テーマ：「高齢者の家族介護の現状とその支援について～ヤングケアラーやダブルケアなどの課題を考える」

講 師／シンポジスト：

イギリス／マデレーン・スター氏(ケアラーズUK事業開発・イノベーション担当ディレクター)

日本／堀越栄子氏(日本女子大学家政学部教授、日本ケアラー連盟代表理事)

チューター：

塚田典子氏(日本大学商学部教授)



マデレーン・スター氏  
(英国)



堀越栄子氏

### 福祉機器開発最前線における コミュニケーション支援機器や ICT機器の高まり

- ・ 高性能高齢者安全確保みまもりシステム(履歴参照機能付き)((株)エイビス)
- ・ ベッド上で使える「ナノミストバス(在宅用)」((株)EINS)
- ・ コミュニケーション機能のほか、カメラ撮影機能、遠隔対話機能を持つクラウドアプリ(東日本電信電話(株))
- ・ 映画・放送等の音声を、スマートフォン等で認識することにより字幕等表示されるメガネ型ウェアラブル端末((株)Enhancelabo)
- ・ 家庭用トイレに組み込まれた排泄支援ロボット((株)岡田製作所)
- ・ 視点と同位置の文字を音声で読み上げるメガネ型機器((株)OTON GLASS)
- ・ 脊髄損傷者用カーボン長下肢装具(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
- ・ 軽量パネルスピーカーと振動により身体で感じるミニシアターシステム(パイオニア(株))
- ・ 多指機構を有する軽量で装飾性に優れた量産型筋電義手(兵庫県立福祉のまちづくり研究所ロボットリハビリテーションセンター)



福祉機器開発最前線ではコミュニケーション支援機器が増

- ・ 全方位駆動車輪機構によるコンパクトなパーソナルモビリティ試作機器（横浜市総合リハビリテーションセンター）

※社名五十音順

## ICT紹介を含むアルテク講座へ

「アルテク講座2017 ～身の回りにあるテクノロジー（アルテク）で創る豊かで楽しい生活～」として、スマホ、タブレット、ICレコーダーなどのICT（情報通信技術）製品を、障害のある人の生活や学習支援に活かすアイデアとともに紹介する講座を含めて開催し、昨年より人数増の523人の参加を得た。

講師：巖淵 守 氏（東京大学先端科学技術研究センター准教授）他

## H.C.R. セミナーでは介護支援ロボットの利用報告も

### 1. 福祉機器、福祉サービス等利用者・家族セミナー（一般向け）

- (1) はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー
- (2) 「高齢者むけの手軽な日々の食事～総菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ」
- (3) 「一般家庭の介護で腰痛にならないための基本技術～ボディメカニクスの理解と活用」

講師：青柳佳子 氏（浦和大学短期大学部介護福祉科特任教授）

- (4) 「介護ロボットの活用で未来を拓く」

講師：五島清国 氏（公益財団法人テクノエイド協会企画部長）



介護ロボットに関するH.C.R.セミナー

### 2. 福祉施設・在宅サービス役職員向け

- (1) 「福祉施設の実践事例発表～役立つ活かせる実践研究、工夫とアイデア」

#### ■A会場

- ① 四條畷荘いっぶくステーション『よるか』～商店街の空き店舗を活用した地域福祉の拠点作り～（社会福祉法人大阪府社会福祉事業団特別養護老人ホーム四條畷荘）
- ② 認知症になっても安心して暮らせる地域を目指して～所沢市三ヶ島地区認知症SOSネットワーク模擬訓練報告～（社会福祉法人桑の実会）
- ③ 全ての職員が働きやすい職場 働き続けられる職場を目指して（社会福祉法人泰仁会特別養護老人ホームやさと）
- ④ All For One みんながひとりのために～多職種連携による外出支援計画に基づく支援～（社会福祉法人楠会特別養護老人ホーム香樹の里）
- ⑤ ICT（Information and Communication Technology）を活用した業務改善とその効果（社会福祉法人堺福祉会特別養護老人ホームハートピア堺）



見て、聞いて、試せる会場内の様子

■ B会場

- ① 特別支援学校通学児のための支援「モーニングサポート」について～法人資源を有効活用した地域貢献事業～(社会福祉法人東方会障害者支援施設瑠璃光苑)
- ② 特別支援学校の業務経験から活かす就労継続支援A型事業所の取り組み～就労・宿泊体験を通し、利用者(児)の自立支援について考える～(社会福祉法人清流苑就労継続支援A型事業所やはず園)
- ③ メンタルコミットロボット【PARO】の更なる可能性について～障害者支援施設での活用方法と利用者の変化～(社会福祉法人芳香会障害者支援施設青嵐荘療護園、青嵐荘路のとう舎)
- ④ 障害者支援施設における介護ロボットスーツの活用実践(社会福祉法人翠昂会障害者支援施設永幸苑)
- ⑤ 障害者施設における災害対応事例と防災体制の強化～台風災害による長期断水への対応例を中心に(社会福祉法人厚生協会障害者支援施設屈足わかふじ園)

(2)「福祉施設における感染症の知識と対応～知っておきたい感染症対策のポイント」  
講師：石原美和 氏(宮城大学看護学群教授)

3. 企業関係者向け

「高齢者・障害者に役立つ生活支援用品の紹介とその開発視点」

講師：星川安之 氏(公益財団法人共用品推進機構専務理事)



企業向け開発視点セミナー

各種記念コーナーの設置

日本・デンマーク外交関係樹立150周年であることを記念し、会場内に記念ブースを設置し、デンマーク在住のH.C.R.北欧担当コーディネーターが福祉機器の輸入等に関する各種の相談説明を行った。

また、民生委員制度創設100周年であることから、東展示ホールガレリアに記念コーナーを設置し、委員活動の一層の理解をすすめるべくパネル展示等を行った。



デンマーク外交関係樹立150周年ブース



民生委員制度創設100周年記念ブース

# 台湾、韓国、中国など アジアからの参加33社と増える

## 概括

2018(平成30)年10月10日(水)から12日(金)の3日間にわたる第45回国際福祉機器展は、出展社数が国内企業を中心に上向き、546社となった。

会場は、東京ビッグサイト東展示ホール1～8を使用し、H.C.R.過去最大の67,260㎡(東京ドームの1.4倍強)にて開催するに至った。

来場者数は119,452人にのぼり、分類別では、販売業42%(前年比11%増)で最も多く、一般が22%(同7%減)、福祉施設11%(同増減なし)、在宅サービス7%(同増減なし)、製造業6%(同3%減)の順となり、販売業の来場者が増加した。

経済産業省より依頼を受け、同省が推進する「ヘルスケアイノベーション ウィークス アジア-ジャパン」の同年の幕開けイベントとしてH.C.R.2018を位置づけるとともに、その一環となるシンポジウム「超高齢社会先進国・日本が手掛ける介護・福祉イノベーション～日本とアジア

諸国の現状・課題とともに～」をH.C.R.セミナーとして実施した。

## H.C.R.2018 出展

- (1) 会期：2018年10月10日(水)～12日(金)
- (2) 会場：東京国際展示場「東京ビッグサイト」東展示ホール1～8
- (3) 主催：全国社会福祉協議会  
保健福祉広報協会
- (4) 来場者数：119,452人
- (5) 出展社数：546社

(海外 84社：アメリカ10、カナダ3、イギリス6、ドイツ6、フィンランド1、スウェーデン4、デンマーク11、フランス2、イタリア5、オランダ2、オーストラリア1、台湾17、韓国4、中国12 及び国内462社)



H.C.R.2018開幕



546社の出展による会場内風景

15回出展感謝状贈呈企業(国内12社)

1	(株) イツミ
2	(株) キャロツツシステム
3	九セラ(株)
4	(株) 総合サービス
5	(株) タマツ
6	(独) 労働者健康安全機構 総合せき損センター
7	(株) ニホン・ミック
8	ハイウィン(株)
9	羽立工業(株)
10	(有) ハニーインターナショナル
11	パンテラ・ジャパン(株)
12	ユニトレンド(株)

※社名五十音順/アルファベット順

特別企画

スウェーデンの仕事と  
育児・介護の両立に学ぶ

わが国では、高齢化率の増加を背景に、家族の介護や看護のために仕事を辞める離職者が多くいる。他方、子育てにおいても、安心して働き続けるために解決すべき待機児問題等が連日のように報道され、仕事と育児・介護の両立はまだまだ難しい状況にある。そこで、両立支援のために国等で先駆的な施策を展開しているスウェーデンから講師を招き、わが国が今後求められる両立支援策のあり方等について国際シンポジウムを開催し、東8ホール内特設会場G1に212人の参加者を得て考察を行った。

日 時：10月11日(木) 13:00～16:00

テーマ：仕事と育児・介護の両立支援～その現状と対策～

シンポジスト：

スウェーデン/アニタ・ニーベルグ氏  
(ストックホルム大学名誉教授)

日本/池田心豪氏(独立行政法人労働  
政策研究・研修機構主任研究員)

チューター：

塚田典子氏(日本大学商学部教授)



アニタ・ニーベルグ氏  
(英国)



池田心豪氏

特別企画ではパラスポーツ体験と  
アスリートトークショー

- 福祉機器開発最前線(東7ホール内特設会場  
/厚生労働省障害者自立支援機器等開発促進  
事業採択作品等13点)
  - ・シンクロアスリート(国立東京工業高等専門学校)
  - ・入浴介護アシストロボット(カナヤママシナリー  
(株)/国立大学法人富山大学)
  - ・ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤  
によるバリアフリー仮設トイレ((株)エクセルシア)
  - ・Vibracion Cajon(金箱淳一/モンブラン・ピク  
チャーズ(株))
  - ・ratatap(金箱淳一/モンブラン・ピクチャーズ(株))
  - ・MusiarM(畠山海人)
  - ・Qピット((有)ホームケア渡辺建築)
  - ・指伝話コミュニケーションパック((有)オフィス  
結アジア)
  - ・IoT杖による見守りサービス((公財)ハイパー  
ネットワーク社会研究所)
  - ・視覚障がい者移動支援サービス((公財)ハイパー  
ネットワーク社会研究所)
  - ・Body-KIN(兵庫県福祉のまちづくり研究所口  
ボットリハビリテーションセンター)
  - ・VRを用いたニューロリハビリテーション(国立  
情報学研究所(稲邑研究室))
  - ・RODEM(CBC(株))

※社名五十音順

## 2. パラスポーツコーナーの開催

パラスポーツを「見て・聞いて・体験して」知ることができるコーナーを東7ホール内に特設会場として設置し、パラスポーツ選手などによるデモンストレーションや体験会、パラスポーツで使用されている機器や競技写真展示などを下記4つのエリアにて実施した。



パラスポーツ・トークショー

### ①コートエリア

#### ■アスリートトークショー

期 日：10月10日(水)

参加者：延べ240名

内 容：元競泳選手の松田丈志 氏とパラアルペンスキー選手の村岡桃佳 氏によるトークショーを実施

#### ■デモンストレーション・体験会

[ウィルチェアラグビー]

期 日：10月10日(水)、12日(金)の各日2回

参加者：延べ147名

講 師：峰島 靖 氏(一般社団法人日本ウィルチェアラグビー連盟) 他



パラスポーツ・デモンストレーション

[車いすバスケットボール]

期 日：10月11日(木) 2回

参加者：延べ110名

講 師：三宅克己 氏(一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟) 他

#### ■パラスポーツ車いす等試乗体験

期 日：10月11日(木)、12日(金)

参加者：延べ287名

### ②パラスポーツミニ体験エリア

期 日：10月10日(水)～12日(金)

参加者：延べ701名

内 容：会期3日間、エリア内にてボッチャの体験を実施。参加者にはH.C.R.特製タオルハンカチを進呈した。

### ③パラスポーツ紹介エリア

パラスポーツの競技写真や使用されている機器・用具の常設展示を実施。

### ④パラスポーツ機器最前線エリア

パラスポーツを支える最新機器の紹介や常設展示を実施。

## 3. 補助犬コーナーの新設

障害のある人のパートナーである「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」の3種を東6ホール内特設会場の招き、デモンストレーションの実施も含め、補助犬に関する理解を深める場を新設した。

さらに、セミナー会場において実際のユーザーに登壇いただき、「補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)を理解しよう」の講義報告を実施した。

(運営協力：日本身体障害者補助犬学会(同会のコーディネートにより日本介助犬協会、日本盲導犬協会、日本聴導犬協会の協力を得た))

## 4. 日常生活支援用品コーナー「片手でも使えるモノ展」

片手でも使える便利な製品をテーマとし、東6ホール内特設会場内を「家事」「着衣」「調理」「食事」「入浴・トイレ」「余暇・文化」といった一日の生活の中の具体的な場面に分類し、場面ごとの便利な製品などを紹介した。

## 5. 子ども広場で新企画の相談事業を実施

障害児のための「子ども広場」では、子ども向けの福祉用具や機器の集中展示、説明員による解説などを実施した。とくに新企画として「現在も未来も大切です！子どもの住まい（肢体不自由・発達障害）相談コーナー」を実施した。

## 6. 出展社交会の実施

東6ホール内特設会場で実施した出展社交会には、160名を超える出展関係者の他、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課長による来賓挨拶、同省障害福祉課長、総務省情報流通行政局情報流通振興課情報活用支援室、デンマーク大使館商務部上席商務官等の臨席を得て、開催した。

## H.C.R.セミナーではアジアを視野にイノベーション発信

### 1. 福祉機器、福祉サービス等利用者・家族セミナー（一般向け）

- (1) はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー
- (2) 「高齢者むけの手軽な日々の食事～総菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ～」  
講師：今寿賀子 氏（虎の門病院栄養部前部長）  
押田京子 氏（虎の門病院栄養部副部長）
- (3) 「一般家庭の介護で腰痛にならないための基本技術～ボディメカニクスの理解と活用」  
講師：青柳佳子 氏（浦和大学短期大学部介護福祉科特任教授）



福祉機器開発最前線

- (4) 「補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）を理解しよう」

講師：高柳友子 氏（日本身体障害者補助犬学会理事、医学博士）

### 2. 福祉施設・在宅サービス役職員向け

- (1) 「福祉施設の実践事例発表～役立つ、活かせる工夫とアイデア～」



補助犬紹介のH.C.R.セミナー

### ■ 特設会場G1

- ① 認知症高齢者とのコミュニケーション法（バリデーション）を現場実践に活かす（社会福祉法人豊悠福祉会特別養護老人ホーム豊悠プラザ）
- ② ICT活用による業務効率化～インカム・タブレットの導入による魅力ある職場づくり～（社会福祉法人八尾隣保館特別養護老人ホーム第二成法苑つむぎ）
- ③ 排泄予知デバイスDFreeを活用した排泄ケア～QOLの向上につなぐ実践～（社会福祉法人聖寿会特別養護老人ホーム健生苑）
- ④ 「ながはま子ども食堂」から地域の輪の広がりへ～子どもが元気+大人が元気＝地域が元気！～（社会福祉法人グロー養護老人ホームながはま）
- ⑤ 外国人介護人材との共生～事業を継続していくための決断～（社会福祉法人黒松内つくし園）

## ■特設会場G2

- ① リフト導入による利用者の安心・安全な支援の実現(社会福祉法人まリモ会 清瀬療護園)
  - ② 地域に根ざし、高売上を実現するファール ニエンテ(A型事業所)の挑戦～『味』・『ひと』・『場所』三位一体の訴求力～(社会福祉法人開く会 ファール ニエンテ)
  - ③ 福祉機器の活用による骨粗鬆症の方への自立支援(社会福祉法人わらしべ会 障害者支援施設わらしべ園)
  - ④ 競争相手のいない商品開発で就労継続支援B型事業利用者の工賃財源確保を(社会福祉法人東京リハビリ協会)
  - ⑤ 障害者支援施設 誠光荘の災害への取り組み～群馬県災害ネットワークとの連携～(社会福祉法人誠光会 障害者支援施設誠光荘)
- (2)「福祉施設における感染症の知識と対応～知っておきたい感染症対策のポイント～」  
講師：石原美和氏(公立大学法人宮城大学看護学研究科教授)
- (3)「みんなの認知症情報学による根拠に基づくケアの実現～認知症の人の情動理解とコミュニケーション支援～」  
講師：石川翔吾氏(静岡大学情報学部助教)
- (4)「福祉機器をめぐる二つの最新動向～貸与制度はどう変わるか、介護ロボット等の施設活用をいかに進めるべきか～」  
講師：五島清国氏(公益財団法人テクノエイド協会企画部長)

## 3. 企業関係者向け

- (1)「介護ロボット(福祉機器)の安全性・導入効果を最大化するために～安全性認証と効果測定をとりまく情勢と実務～」  
講師：大場光太郎氏(国立大学法人産業技術総合研究所ロボットイノベーション研

究センター副センター長

吉村俊厚氏(経済産業省製造産業局産業機械課ロボット政策室室長補佐(ロボット政策担当))

- (2)「超高齢社会先進国・日本が手掛ける介護・福祉イノベーション～日本とアジア諸国の現状・課題とともに～」

モデレーター：

富原早夏氏(経済産業省ヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室長)

スピーカー・パネリスト：

Intan Murnira Ramliu氏(ERIA(東アジア・アセアン経済研究センター)政策フェロー)

井上剛伸氏(国立リハビリテーションセンター研究所福祉機器開発部長)

Chua Hoi Wai氏(香港社会服務聯会 Chief Executive)

スランヨー氏(タイ商工会議所保健衛生部部长)

ナート氏(タイ商工会議所保健衛生委員会理事)

Liang-Kung Chen氏(台北退役軍人病院老年医学センター長)



経済産業省協働セミナー

# オリ・パラ準備のため 西館・南館にて開催

## 概括

翌年に控えた東京オリンピック・パラリンピック2020開催(当初予定)の影響により、これまでH.C.R.が使用してきた東京ビッグサイト東展示ホールが国際放送センターならびにメインプレスセンターとしての仕様に改修されることとなり、利用できないこととなった。その状況下においてH.C.R.2019は、東京ビッグサイト西館・南館展示棟の全4階層にて開催となった。

面積は49,280㎡で、前回の7割の展示スペースで開催する状況となった。来場者のアクセスの利便性等を鑑み、西館・南館展示棟をすべて借り、第46回国際福祉機器展は2019(令和元)年9月25日(水)～27日(金)の3日間開催した。出展社数は438社であった。

展示会場が2棟となり、さらに2階層に分かれることが影響して、来場者数は前年よりも減少し、105,675人となった。分類別では、販売業が44%(前年比2%増)で最も多く、一般22%(同増

減なし)、福祉施設11%(同増減なし)、在宅サービス6%(同1%減)、製造業6%(同増減なし)の順となった。

西館展示棟アトリウムで開催したオープニングセレモニーでは、当年度より全国社会福祉協議会会長にあらたに就任した清家 篤会長が、主催者挨拶として次の趣旨を述べた。

- 福祉サービスを受ける人たちが増えるなか、サービスを提供する労働力は減少していくことによる福祉機器による福祉サービスの生産性向上が不可欠であること
- 福祉サービスを受ける人たちからの自律的活動範囲の拡大や、より快適なサービスへの要求も高まっており、福祉機器を活用したより高品質な福祉サービスの提供もますます求められること
- これらは福祉機器の充実、技術革新によって福祉サービスの付加価値生産性を高めるということであり、そのためにも、福祉機器に関わる企業・団体、そしてご来場される多くの皆様が、



清家 篤全社協会長、古都賢一保健福祉広報協会理事長等による開会



西館エントランスロビーの様子

福祉機器に関わるハードとソフトの情報共有を図るとともに、さらなる開発と普及に寄与されることを期待していること。

また、オープニングセレモニーでは来賓代表として加藤勝信厚生労働大臣から祝辞をいただき、橋本泰宏社会・援護局障害保健福祉部長が代読した。

特別企画として、「福祉機器開発最前線」では障害のある人たちが先端科学技術を駆使したアシスト機器を使って日常生活に必要な動作で競う国際競技大会「サイバスロン」を説明や試乗などで紹介し障害の理解を深めた。

さらに、福祉・介護業界の経営層とソリューションを持つ企業とのビジネスマッチングイベント「CareWare Japan」を開催した。

なお、西館・南館展示棟の開催により、最寄りのりんかい線「国際展示場」駅前から発車の来場者用のシャトルバスを、西館・南館展示棟の2階エリアに直行するルートに切り替えて運行した。

さらには、車いすのまま搭乗できる介護用タクシーを来場者のために大幅な台数を借り上げ、無料運行することにより、最寄駅からの往復路アクセスを可能にした。

また、来場者の全ホールへの回遊性を高めるため、H.C.R.アプリを活用したスタンプラリーの開催や、西館・南館展示棟の2階屋外エリアにフードコートを設けるなど、各種の工夫を施した。

なお、西館・南館展示棟の全4階層の往来を円滑なものとするため、東京ビッグサイトに対して、車いすユーザーの来場者等が階層移動をスムーズにするエレベーターの増設を要望していた。結果としてその実現には至らなかったものの、会期中において、展示ホール間の移動におけるバリアフリー仕様の工夫が東京ビッグサイト側により強化され、実行された。

H.C.R.主催団体のひとつである保健福祉広報協会に古都賢一理事長が当年度よりあらたに就任した。

## H.C.R.2019 出展

(1) 会期：2019年9月25日(水)～27日(金)

(2) 会場：東京国際展示場「東京ビッグサイト」  
西館・南館展示棟

(3) 主催：全国社会福祉協議会  
保健福祉広報協会

(4) 来場者数：105,675人

(5) 出展社数：438社

(海外 59社:アメリカ10、カナダ1、イギリス5、ドイツ5、スウェーデン2、デンマーク8、イタリア3、フランス2、オランダ1、台湾12、韓国1、中国7、オーストラリア1、ベトナム1 及び国内379社)

### 15回出展感謝状贈呈企業(国内10社)

西館展示棟アトリウムで実施した15回出展感謝状贈呈式では、当年度より保健福祉広報協会理事長にあらたに就任した古都賢一より、下記10社に感謝状の贈呈を行った。

1	アタム技研(株)
2	アルジョ・ジャパン(株)
3	エア・ウォーター(株)
4	(株)オーヤラックス
5	キューピー(株)
6	(株)トンボ
7	(一社)日本リハビリテーション工学協会
8	(株)日立システムズ
9	フジホーム(株)
10	プロト・ワン(株)

※社名五十音順/アルファベット順

## 特別企画

### アートを活用しての認知症高齢者支援

「認知症フレンドリー・コミュニティ」の発祥国である英国から講師を招き、

国際シンポジウムとして認知症高齢者にとってのアートを活用した支援について学びつつ、わが国が今後求められる支援のあり方や体制づくりのあり方について、西3ホール内特設会場に258人の参加者を得て、考察した。

日時：9月26日(木) 13:00～16:00

テーマ：「認知症高齢者にやさしいまちづくり～その実践と、アートを活用した支援にみる可能性～」

講師／シンポジスト：

イギリス／マリア・パーソンズ氏 (Creative Dementia Arts Network 理事)

日本／杉山美香氏 (地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター同研究所 研究員)

チューター：

塚田典子氏 (日本大学商学部教授)



マリア・パーソンズ氏  
(英国)



杉山美香氏

### サイバスロン紹介や ビジネスマッチングイベントを開催

#### 1. 福祉機器開発最前線 (西4ホール内特設会場)

障害のある人たちが先端科学技術を駆使したアシスト機器を使って日常生活に必要な動作で



サイバスロン機器紹介

競う国際競技大会「サイバスロン」とそこで使用された機器を専門家による説明や試乗などで紹介した。

とくに、2019年に日本で開催された「サイバスロン車いすシリーズ」大会において上位入賞したロシアチーム等を招き、デモンストレーションも交えつつ、理解を深めるための場とした。

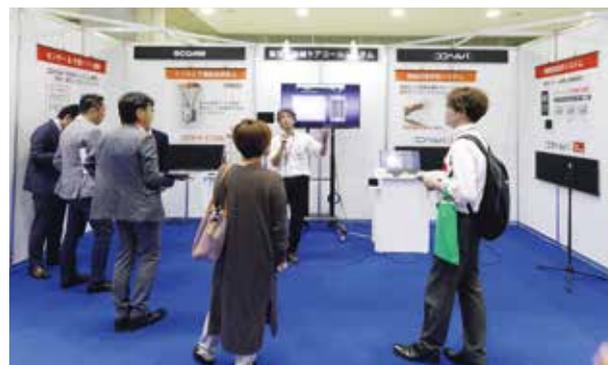
さらには、関連講義を下記のとおり実施した。  
講義タイトル：サイバスロンと福祉の心

日程：9月25日(水)～27日(金) ※各日60分

講師：富田豊氏 (慶応義塾大学名誉教授)

#### 2. CareWare Japan

デンマーク・オーフス市が開発し北欧やEC圏内への展開が進められている商談プログラム CareWare を開催した。これはデンマークで開発された福祉機器評価手法を活用する方法も学べる、福祉・介護業界の経営層とソリューションを持つ企業とのビジネスマッチングイベントであり、初めての紹介であった。



CareWare Japan

開催テーマを「ソリューションが経営を変える～介護職員が活きる職場づくり～」とし、生活支援やヘルスケア分野の新技术、ケアスタッフの労働環境を改善するソリューション等の機器等についてトライアルも含めた導入を前提で紹介する場となった。

### 3. 高齢者・障害者等の日常生活支援用品コーナー「十人十色展」等

ブース内を「衣」「食」「住」といった一日の生活のなかの具体的な場面に分類し、場面ごとに役立つ製品を常設展示した。

なお、会場となった会議棟1階レセプションホールBでは「子ども広場」「ほじょ犬コーナー」を併せて設置し、情報発信の拠点のひとつとした。



ほじょ犬デモンストレーション

### 4. 自助具を製作体験できる相談コーナー

作業療法士や技師などの専門家が福祉機器や自助具に関わる来場者の相談に無料で応じた。

また、西展示棟アトリウムに「自助具製作体験コーナー」を設け、ストローホルダーおよびホルダー付きスプーンの製作体験などを9月25日(水)・26日(木)に計4回実施し、自助具に関する理解を深めた。

(協力：日本作業療法士協会、協力および講師：NPO法人自助具の部屋)

## 世界をめざす福祉機器イノベーションの発信へ

「H.C.R.セミナー」には延べ2,508人が、「はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー」には延べ594人が、「高齢者むけの手軽な日々の食事～総菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ～」には355人が、「アルテク講座2019～身の回りにおけるテクノロジー（アルテク）で創る豊かで楽しい生活」には406人がそれぞれ参加した。

とくに企業関係者向けセミナーとして、前年度に引き続き経済産業省の協力のもと「世界に羽ばたく日本の介護・福祉ベンチャーイノベーション」を、また、ジェトロ（日本貿易振興機構）の協力を得て推薦いただいた講師をお招きしての、「日本の医療・介護産業による中国・ASEAN展開の状況と課題について」を開催した。

### 1. 福祉機器、福祉サービス等利用者・家族セミナー（一般向け）

#### (1) はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー

会議棟1階レセプションホールAにて開催した。

福祉車両編は、熊倉良雄氏（国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局第二自立訓練部肢体機能訓練課自動車訓練室長）とともに、岩崎洋氏（国立障害者リハビリテーションセンター病院リハビリテーション部副理学療法士長）に講義いただいた。

#### (2) 「高齢者むけの手軽な日々の食事～総菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ～」

##### ■ 実演（西3ホール内特設会場）

講師：今寿賀子氏（虎の門病院栄養部前部長）

押田京子氏（虎の門病院栄養部副部長）

#### ■ 「高齢者むけの手軽な日々の食事」10周年記念セミナー

##### ① 高齢者が健康な生活を維持するための

栄養と食事を考える

日程：9月25日

講師：今寿賀子氏

押田京子氏

② 摂食・嚥下の機能と誤嚥性肺炎

日程：9月26日

講師：磯さおり氏(虎の門病院リハビリ

テーション部言語聴覚士)

③ 高齢者のフレイル対策～低栄養予防における保健事業と介護予防の一体的実施について～

日程：9月27日

講師：田中和美氏(神奈川県立保健福祉

大学保健福祉学部栄養学科教授)

(3)「障害者文化芸術活動の推進と展望」

講師：大塚千枝氏(厚生労働省社会・援護局

障害保健福祉部企画課自立支援振興室

障害者芸術文化活動支援専門官)

吉原貞典氏(文化庁地域文化創生本部事務局総括・政策研究グループ チーフ)

柴崎由美子氏(障害者芸術活動支援センター@宮城(SOUP))

堤 康彦氏(特定非営利活動法人芸術家と子どもたち 代表)

(4)「障害のある人が社会参加しやすい共生社会の実現～2020年とそれ以降に向けた取り組みと課題～」

講師：阿部一彦氏(日本身体障害者団体連合会会長／全国社会福祉協議会障害関係団体連絡協議会会長)

2. 福祉施設・在宅サービス役職員向け

(1)「福祉施設の実践事例発表～役立つ、活かせる工夫とアイデア～」

■ 特設会場 E 1

① 福祉機器と“共に生きる”(社会福祉法人友愛十字会特別養護老人ホーム砧ホーム)

② 車椅子メンテナンスを広げる取り組み～職員の意識を高めるアイデア～(医療法人財団立川中央病院介護老人保健施設アルカディア)

③ スタッフが働きやすい環境を作る！～離職者を出さない施設の取り組みと効果に



会場内の様子

ついて～(社会福祉法人堺福社会特別養護老人ホームハートピア堺)

- ④ 理想の排泄ケアを実現する用具開発～開発用具を使用した事例紹介～(社会福祉法人正吉福社会特別養護老人ホーム世田谷区立きたざわ苑)
- ⑤ まちと共に 未来をともに(社会福祉法人正和会特別養護老人ホームまきの苑)

#### ■会議棟1階102号室

- ① すべては「人を大切にすること」からはじまる～「人を大切にすること」経営の九つのキーワード～(社会福祉法人雲南ひまわり福祉会)
- ② 職場における企業在籍型ジョブコーチの効果的かつ具体的な支援内容について(社会福祉法人阪神福祉事業団)
- ③ 農福連携を取り入れた工賃向上に向けての取り組み～地域における農福連携の可能性～(社会福祉法人ラーフ障害福祉サービス事業所やまもも) 共同受注窓口を活かした農福連携～香川県モデル～(NPO法人香川県社会就労センター協議会)
- ④ ノーリフトケア～リフト等の介護機器活用と効果～(社会福祉法人すぎのこ村障害者支援施設ひばり～ヒルズ)
- ⑤ 災害支援を行う意義～社会福祉法人南山城学園の実践～(社会福祉法人南山城学園)
- (2)「新卒人材確保にかかる最新動向と広報のあり方について」  
講師：東郷こずえ氏(株式会社マイナビリサーチ&マーケティング部HRリサーチ1課課長)
- (3)「『働き方改革』のねらいと働きやすい職場づくり～介護福祉分野を中心に～」  
講師：齋藤直路氏(株式会社スターパートナーズ、一般社団法人介護経営フォーラム代表)
- (4)「施設で役立つ介護ロボット・ICTの最新

動向」

講師：五島清国氏(公益財団法人テクノエイド協会企画部長)

### 3. 企業関係者向け

(1)「世界に羽ばたく日本の介護・福祉ベンチャーイノベーション」

講師：富原早夏氏(経済産業省商務・サービスグループ医療・福祉機器産業室長)  
原正彦氏(株式会社mediVR代表取締役社長)

中西敦士氏(トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社代表取締役)

内藤淳平氏(WHILL株式会社取締役兼最高開発責任者(CDO))

森政男氏(リーフ株式会社代表取締役社長技術責任者)

Ms. Angela K.W.NG氏(香港社会服務聯会(HKCSS) Project Director)

Dr. Gengpong Tangaroonsanti氏(K.P.N.シニア・リビング株式会社代表、高齢者リハビリテーションセンター“SENIZEN”経営者)



経済産業省の協力によるセミナー

(2)「日本の医療・介護産業による中国・ASEAN展開の状況と課題について」

講師：呉冬梅氏(日本貿易振興機構(JETRO)大連事務所高級経理)

鈴木将史氏(株式会社メディヴァ海外事業部部長)

# コロナ禍により実展示会中止、 「福祉機器Web2020」の開催に 転換

## 概括

開催を予定し、いち早く出展社募集を進めていた「第47回国際福祉機器展H.C.R.2020」は、新型コロナウイルス感染が世界中にパンデミックを巻き起こした影響を鑑みて中止とし、代替としてWebサイトにおいて「福祉機器 Web2020」を開催した。

主催する保健福祉広報協会において、このオンラインイベントを、当該年度に限り一般財団法人としての公益目的事業として開催する位置づけとしたため、これまで法人独自の事業として実施してきたH.C.R.の名称は使用することなく開催することとなった。

なお、新型コロナウイルス禍で国内外の経済の著しい減退状況の中にあって「福祉機器 Web2020」の運営経費は保健福祉広報協会にて全額負担し、この状況下にあっても福祉機器を必要とするユーザーに最新の福祉機器情報を届ける使命をH.C.R.運営組織として果たすこととした。

2020(令和2)年10月21日～2021(令和3)年3月31日の間を「福祉機器 Web2020」会期と定め、あ

らためて出展社を募集し、計355社・団体の参加により実施した。製品検索ページには1,400点を超える福祉機器を掲載し、紹介した。

会中には、オンラインでの福祉機器の紹介をはじめ、福祉機器の選び方、身の回りのスマートテクノロジーを障害のある人の生活に活用する方法等の紹介、また、障害のある人の在宅就労の可能性についてなど、福祉・介護・保健・リハビリ等社会保障・福祉制度の課題や政策動向をテーマにしたWebセミナー（ウェビナー）を国内外の有識者による講義・報告映像にて開催した。

さらには、新型コロナウイルス禍における福祉施設・事業所の感染予防等の取り組み事例紹介や福祉機器の最前線に関するレポートをWebサイト上に公開した。

その結果、「福祉機器 Web2020」は97万6千ページビューを超える閲覧を得た。

## H.C.R.2020 出展

利用者のニーズに応えるための福祉機器を紹介するオンラインイベント「福祉機器 Web2020」は下記により実施した。

テーマ：ともに生きる豊かな社会づくりをめざして

主催：全国社会福祉協議会

保健福祉広報協会

出展社数：355社

(国内319社、海外12か国・1地域より36社)

※製品検索ページには1,400点を超える福祉機器



ICT機器の活用をテーマにしたWebセミナー

を掲載し、紹介した。

会期：2020年10月21日～2021年3月31日

公開場所：H.C.R.Webサイトを活用して公開

閲覧方法：自由に閲覧可能（無料）

※掲載製品については、タグ付けによる新たな検索機能を追加した。

閲覧数：976,447ビュー

※会期初日より、清家 篤全国社会福祉協議会会長の主催者挨拶映像、赤澤公省厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長のメッセージ映像を配信した。

※会期は当初、2020年12月31日までとしていたが、視聴者ニーズに鑑み、2021年3月31日まで会期を延長し実施した。

## 特別企画

### 1. 国際シンポジウム映像配信

H.C.R.2019に併催した国際シンポジウムにおいてアートを活用した認知症高齢者への支援をメインテーマとした、英国スピーカー マリア・パーソンズ氏の報告映像を初公開した。

内容を「イギリスにおける高齢者と介護施設の状況」「認知症高齢者にとってのアートの力とその効果」の2つに再編集し、和訳音声を付したことに加え、さらに追加映像「COVID19時代の挑戦と変化～認知症高齢者とともに歩む～」を掲示し、コロナ禍における英国の認知症高齢者へのリモート支援を含む活動内容等についての説明も加えて配信した。

テーマ：「認知症高齢者にやさしいまちづくり～その実践と、アートを活用した支援にみる可能性～」

配信期間：2020年10月21日～2021年3月31日

閲覧数：3,297ビュー

スピーカー：

マリア・パーソンズ氏（英国／Creative Dementia Arts Network 理事）

## H.C.R. セミナーのWeb開催とアーカイブ配信

福祉機器利用者や福祉・介護関係者にとってサービスの質、経営など課題となっているテーマをとりあげ、その理解や知識・技術の向上を図るためのWebセミナー（ウェビナー）を次により開催し、事前登録者への視聴配信とその見逃し配信の実施、また、開催期間中のアーカイブ配信の方法等により実施し、5,700ビューを超える視聴を得た。

### 【テーマ／講師等】

#### 1. 福祉機器、福祉サービス等利用者・家族セミナー（一般向け）

(1) はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナーミニ

配信日：2020年10月21日・22日・23日～  
2021年3月31日

講師：前年度同様

(2) 「一般家庭の介護で腰痛にならないための基本技術」

配信期間：2020年10月16日～2021年3月31日  
講師：青柳佳子氏（浦和大学短期大学部介護福祉科特任教授）

(3) 「ニューノーマル時代の福祉とICT ～時間と空間を越える福祉へ～」

初回配信日：2020年10月22日（LIVE配信）

※その後のYouTubeでのアーカイブ配信では2021年3月31日までの視聴回数192回

講師：巖淵 守氏（早稲田大学人間科学学術院教授）

中邑賢龍氏（東京大学先端科学技術研究センター教授）

※本ウェビナーは、配信実施中にチャットで質問を募集し、また、アンケート機能を用いることにより、LIVE配信であることを活かした視聴者参加型ウェビナーとして開催した。また、収録映像を字幕付きとして再編集し、2021年2月1日～3月31日の間、アーカイブ配信として公開した。

- (4)「就労をめざす障害のある人に伝えたい最新動向～在宅就労など多様な可能性を展望して～」

初回配信日：2020年11月27日

講師：阿部一彦氏（日本身体者障害者団体連合会会長）

## 2. 福祉施設・在宅サービス役職員向け 講座、レポート公開

- (1)「新型コロナウイルスに負けないための福祉施設環境整備のためのポイント」

初回配信日：2020年10月23日

講師：中原英臣氏（医学博士／新渡戸短期大学名誉教授）

- (2)「在宅介護サービスの人材定着に資するICT活用について」

初回配信日：2020年11月20日

講師：竹下康平氏（株式会社ビーブリッド代表取締役）

## 3. 企業関係者向け

- (1)「障害者雇用をすすめる～企業に役立つ募集・定着のワンポイント～」(計4編)

初回配信日：2020年11月5日・11日・18日・25日

講師：鈴木秀一氏（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構職業リハビリテーション部指導課長補佐障害者職業カウンセラー）

相田孝正氏（同指導係長 障害者職業カウンセラー）

## 福祉機器最新関連情報を掲載し「福祉機器ガイドブック2020」を刊行

「福祉機器Web2020」と連動し、福祉機器開発・販売企業・団体等に製品情報掲載を働きかけ、一覧できる冊子として同年10月に刊行した。福祉機器約1,000点、福祉機器企業256社の情報を掲載するものとなった。また、特別寄稿レポートとして、専門家による近年の福祉機器動向の紹介・分析等を併せて次のとおり掲載し、関連情報を得

られる資料とした。

## 特別寄稿レポートタイトルと執筆者

- (1) 生活を見て、暮らしやすさを実現する～手段の一つとしての福祉用具～  
堀家京子氏（公益財団法人武蔵野市福祉公社）
- (2) その福祉機器は本当にあなたが求めるものですか？  
山口純氏（株式会社ヤマグチ代表取締役）
- (3) 福祉機器のユーザーニーズとシーズのマッチング  
五島清国氏（公益財団法人テクノエイド協会企画部長）
- (4) 新型コロナウイルス禍における福祉機器の販売・開発への影響～福祉機器関企業・団体アンケート結果をふまえての考察～  
本村光節氏（一般社団法人日本福祉用具供給協会専務理事・事務局長）
- (5) 福祉機器利用者調査の結果と総評  
後藤芳一氏（一般財団法人機械振興協会副会長）



Webページと連動して刊行した福祉機器ガイドブック2020

## Webでの福祉機器と福祉に関する最新情報の提供

### 1. Web掲載資料

#### 「子どものバギー・車いす 選び方のポイント」

横浜市総合リハビリテーションセンターの協力のもと、子どもたち一人ひとりの身体状況や生活環境、目的などに適合した福祉機器を選ぶ一助となるよう、子ども向けバギー・車いすを紹介したパンフレットを作成し、Webサイトに掲載し紹介した。

### 2. Web掲載レポート「コロナ禍におけるアクセシブルな製品・サービス」

執筆者：星川安之 氏（公益財団法人共用品機構 専務理事）

障害のある人等の自立支援をすすめるため、コロナ禍による新しい生活様式への適用に向けて開発・改良されたさまざまな製品・サービス・システムをピックアップし、実際に活用している場面等を含めたレポートとして、計10編をWebサイトに掲載し紹介した。

### 3. Web掲載レポート「福祉機器最前線」

今後の普及が期待される各分野における最前線の福祉機器の活用動向を紹介するとともに、その機器によってもたらされる展望などについて考察した有識者によるレポートを掲載した。

#### (1) 共生社会を支える最新テクノロジー

田代洋章 氏（一般社団法人日本支援技術協会 理事・事務局長）

#### (2) 視覚障害者のためのコミュニケーション支援機器のトレンド

星野史充 氏（社会福祉法人名古屋ライトハウス情報文化センター）

#### (3) eスポーツがもたらす共生社会の実現

田中栄一 氏（一般社団法人ユニバーサルeスポーツネットワーク代表理事）

### 4. 「福祉施設・事業所における新型コロナウイルス感染防止のための取り組み」

利用者や家族の安全・安心を保持するためのあらたな福祉機器の導入や、感染防止用の各種ツールを活用して展開しているさまざまな取り組み工夫例をレポートにまとめ、Webサイトに掲載して紹介した。

#### (1) コロナ対策会議の設置運営と、多角的対応マニュアルにもとづく利用者支援

千葉県／社会福祉法人翠昂会障害者支援施設 永幸苑

#### (2) オンラインを活用した面会や見学対応の実施

群馬県／社会福祉法人誠光会障害者支援施設 誠光荘

#### (3) コロナ禍における障害者就労支援事業所の仕事の確保と工賃向上への取り組み

徳島県／特定非営利活動法人とくしま障がい者就労支援協議会、社会福祉法人 徳島県身体障害者連合会就労支援B型事業所「社会就労センターかもな」

#### (4) 新型コロナウイルス禍における就労移行支援事業所における利用者支援の取り組み

千葉県／社会福祉法人光明会就労移行支援事業所就職するなら明朗アカデミー

#### (5) VR教材を活用した就労訓練（およびSST）の取り組み

青森県／就労準備型放課後等デイサービス クロスロード

#### (6) コロナ禍における認知症リモートカフェの取り組み

山口県／宇部市北部西地域包括支援センター

### 5. 世界の福祉現場の現状に関する情報提供

新型コロナウイルス禍における欧州の福祉分野等の活動状況について、過年度の国際シンポジウムスピーカー等の協力によるレポート（映像レポートを含む）をWebサイトに掲載し、紹介した。

#### (1) スウェーデンにおける新型コロナウイルス感染症への対応

アニタ・ニーベルグ氏(スウェーデン/ストックホルム大学名誉教授)

(2) 英国におけるコロナ禍が介護・福祉に与えた影響について

マデレーン・スター氏(英国/ケアラズUK事業開発・イノベーション担当ディレクター)

(3) デンマークにおける新型コロナウイルス感染症の影響による福祉分野現況レポート(映像レポート)

ハンス・エリック・ヘンリクセン氏(デンマーク/ヘルスケアデンマークCEO)

## 6. 介護保険制度の総括と展望に関する関係情報の発信

介護保険制度創設20周年を機とし、さらに同年6月に社会福祉法が改正され、全国の市町村における新たな事業として重層的支援体制整備事業が創設されたことをふまえ、介護保険制度と運用・効果の総括を行うとともに、今後の展望について解説する次の講義映像をWebサイトに掲示し、発信した。

講義テーマ：

これからの介護保険制度を展望する～制度創設から20年～

講師：香取昭幸氏(上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授)

配信期間：2020年12月11日～2021年3月31日

## 7. 新型コロナウイルス禍における福祉機器の販売・開発への影響調査の実施

新型コロナウイルス禍における福祉機器の販売・開発への影響について、H.C.R.に出展歴のある企業・団体を対象に7月1日付けでアンケート調査を実施し345社からの回答を得た。

調査結果はWebサイト、保健福祉News、福祉機器ガイドブック等に掲載し、広く情報提供した。

調査期間：2020年7月下旬～8月26日

## 8. 冊子「はじめての福祉機器 選び方使い方副読本」の発行と解説動画による発信

「はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー」副読本として刊行してきた同冊子を最新情報を組み入れて継続刊行した。あわせて、執筆者を講師とし、解説動画をWeb上でミニセミナーとして発信した。



福祉機器の選び方・使い方をWebセミナーとして実施



福祉機器の選び方・使い方 福祉車両編のアーカイブ映像

# コロナ禍、青梅展示棟での 実展示会・Web展の ハイブリッド開催

## 概括

新型コロナウイルス禍により世界中がパンデミックとなった2020年を超え、さまざまな開催制約があるなか、感染防止対策に万全を期す工夫を幾重にも重ねて、H.C.R.実展示会を再開した。また、前年度に引き続いてWeb展を合わせたハイブリッド開催とすることとした。全国の福祉機器情報を必要とする方々に時間や場所を問わずに必要な福祉機器情報等にアクセスできる環境を構築した。

同年の実展示会は、開催が1年繰り下げとなった東京オリンピック・パラリンピック協議大会の影響を受け、東京ビッグサイト東展示棟および西・南展示棟が使用できないままであったため、東京ビッグサイトが青海エリアに仮設した「青海展示棟」を使用しての開催となった。

第48回国際福祉機器展は2021（令和3）年11月10日（水）～11月12日（金）の3日間にわたって開催し、出展は173社となった。青海展示棟の展示面積は23,200㎡であり、2018年に比して35%弱の

面積しかなく、すべての出展希望社の意向を受け入れきれない状況となり、実展示会の出展社募集を早期に締め切るなど、例年とは異なる展示環境となった。

なお、海外出展社の多くは、新型コロナウイルス禍の影響を鑑みて参加を見送る状況となった。

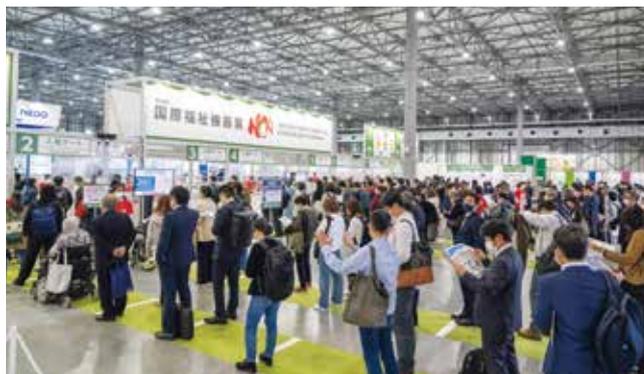
来場者については、コロナ禍が大きく影響し、実展示会来場は39,647人であった。分類別では、一般が36%（前年比14%増）で最も多く、販売業18%（同26%減）がそれに続いた。実来場者の特性として学生の来場が多く見受けられ、コロナ禍において現場実習さえ実施できなかった各種福祉専門職養成校等の生徒によるH.C.R.視察がいかに養成上有効なものであるかの一面も伺うことができた。

さらに、前年に引き続き、国際福祉機器展Web2021（以下、H.C.R.Web2021）を2021（令和3）年10月11日（月）～12月10日（金）の間開催し、オンライン上で204社・団体が出展し、956,912ビューの閲覧を得た。

Web上では、実展示会参加者登録ならびに



東京ビッグサイト 青海展示棟外観



当時のソーシャル・ディスタンスに配慮した開場直前の様子



清家 篤全社協会長による主催者挨拶映像

H.C.R.Web2021閲覧のための登録システムの構築を行った。このことにより、来場の安全性を高めた入場管理を行ったとともに、H.C.R.Web出展社が必要な閲覧者情報を獲得できる等の工夫を施した。なお、福祉機器ガイドブックについては、Web展開始による出展製品情報提供の充実を実現した等の理由から、当年度までの製作とすることとした。

また、国際シンポジウムやH.C.R.セミナー（一部を除く）を当該Web上で実施した。

さらに、H.C.R.をイメージする映像として「ともに生きる豊かな社会の実現」をテーマに雄大な自然・人・街並みが一体となって織りなす映像を制作するべく、タイムラプス・クリエイター清水大輔氏の協力を依頼した。日本の自然、街、人々、暮らしを動画で紹介する「H.C.R.心像」をWeb展で公開するとともに、実展示会のオープニングセレモニー等で披露した。

## H.C.R.2021 出展

### 実展示会

- (1) 会期：2019年11月10日(水)～12日(金)
- (2) 会場：東京国際展示場「東京ビッグサイト」  
青海展示棟
- (3) 主催：全国社会福祉協議会  
保健福祉広報協会
- (4) 来場者数：39,647人

- (5) 出展社数：173社  
(海外7社：アメリカ4、シンガポール1、スウェーデン1、中国1 及び国内166社)

### Web展示会

- (1) 会期：10月11日(月)～12月10日(金)
- (2) 閲覧数：956,912ビュー
- (3) 出展社数：204社(実展示会出展社を含む)  
15回出展感謝状贈呈企業(国内5社)

1	(国研) 情報通信研究機構
2	(株) シンエンス
3	(株) 濱田産業
4	(株) ピーエーエス
5	(株) メディカルプロジェクト

※社名五十音順/アルファベット順

## 特別企画

### 主催者企画も実展示会とWeb展とでハイブリッド実施

#### 1. 主催者企画とその実施区分

##### ■ 実展示会での開催分

- (1) はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー  
延べ856人が参加した。例年の10プログラムに加え、あらたな取り組みとして福祉施設役職員向けに「福祉施設におけるICT活用」を実施した。  
講師：竹下康平氏(株式会社ビーブリッド代表取締役)
- (2) 子ども広場  
従前の子ども向け展示や療育・住宅改修相談等に加え、介護ロボット関連機器展示と関連相談も実施した。
- (3) 高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー「新しい日常・多様なニーズ～伝わる マスク展～」  
障害のある人が新型コロナウイルス禍において不便さを感じたことや工夫したことについてまとめたパネルを常設展示した。また、コミュニケーションを深めるためのさまざまな工夫が施さ

れたマスクとその関連製品を展示するとともに、マスク使用に関するアンケート調査を実施し、その結果をWebで紹介した。

(4) ふくしの相談と体験コーナー（福祉機器・自助具等）

(5) 被災地応援コーナー

同コーナーでは、自然災害により被害を受けた日本各地の障害者就労支援製品を販売する「被災地応援コーナー」を従来同様に設置するとともに、東日本大震災発生から10年を振り返るパネル展示を行い、継続的な支援の必要を啓発した。

(6) 国際福祉機器展 Web2021 紹介コーナー

Web展をその場で体験できるようにパソコンを設置し、Web展でのみ閲覧可能なWebセミナーのご紹介や、出展社／製品検索機能を使ってブース内で出展社や製品を検索してから実際のブースに足を運べるなど、Web展の活用方法を紹介した。



日常生活支援用品コーナー 伝わるマスク展



自助具相談コーナーでの自助具製作体験

## ■ Web展での開催分

(1) 福祉機器展示

H.C.R.Web2021で最新福祉機器約1,000点を展示した。また、その内容を実展示会において「福祉機器ガイドブック2021」として刊行し販売した。Web展閲覧数は986,929ビュー（H.C.R.Web2021期間を含み、令和4年3月31日の間）。

(2) 国際シンポジウム

「英国におけるヘルスケア状況と、日本における健康寿命へのアプローチ」をテーマとし、英国と日本の研究者によるヘルスケアをテーマとする講義映像をH.C.R.Webサイト上でWeb展会期中、公開し、4,864ビューの閲覧を得た。

講師：イギリス／ジョージ・リースン氏（オックスフォード大学高齢者研究所副所長）

日本／飯島勝矢氏（東京大学高齢社会総合研究機構機構長・未来ビジョン研究センター教授）

(3) H.C.R.セミナー

Web映像公開を10月11日～令和4年3月31日



会場内での機器試乗・試用の様子

とし、公開した(一部を除く)。

① 福祉機器、福祉サービス等利用者・家族セミナー (一般向け)

A. 「AI・DX時代の福祉とICT ～最新ICTの紹介とその傾向～」

講師：巖淵 守 氏 (早稲田大学人間科学学術院教授)

B. 「認知症の人を地域で支える」

講師：矢吹知之 氏 (社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター 研修部長)

C. 「障害者の自立と社会参加を検証する」

講師：野澤和弘 氏 (植草学院大学副学長・発達教育学部発達支援教育学科)

D. 「誰も排除しない社会へ～ポスト・コロナの新しいセーフティネット～」

講師：宮本太郎 氏 (中央大学法学部教授)

E. 「住民主体のまちづくりはいかにしてなされたか～大規模災害からの復興～」

講師：小野竹一 氏 (宮城県東松島市あおい地区区会長)

② 福祉施設・在宅サービス役職員向け

A. 「地域共生社会の実現に向けた地域づくり」

講師：笹子宗一郎 氏 (厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課課長)

B. 「新型コロナウイルスクラスター発生現場から見たこと～支援現場で求められる対応～」

講師：大友達也 氏 (社会福祉法人あすなろ学園事務局長)

③ 企業関係者向け

A. 「福祉機器メーカーと福祉専門職との連携・協働のあり方」

講師：富板 充 氏 (社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具プラザ作業療法士)

## コロナ禍影響調査報告の映像を制作

実展示会出展社の協力を得て、新型コロナウイルス禍における福祉機器開発販売企業の対応方針や工夫



H.C.R.Web 展体験コーナー

の実例をインタビューや取材によって報告映像としてまとめ、Webサイト等にて配信した。

## 来場者への配慮と感染症防止対策

青海展示棟には来場者用駐車場がないことから、近隣のG1駐車場を専用に借り受け、シャトルバスや介護タクシーをピストン運行させることで、自家用車や貸切バス等で来場する者の移動に資した。

また、会場への使用駅が変更となることから、りんかい線運営会社との入念な協議のもと、青海駅、国際展示場前駅、新木場駅における案内体制を大幅に強化して対応した。

H.C.R.開催において新型コロナウイルス感染症防止対策として、次の実施工夫を行った。

- 日時分散入場につながる来場者Web登録方法の導入
- 会場入口における来場者検温と手指消毒、マスク着用の徹底
- 場内滞留者が密にならないよう、都基準による一定数に調整するための工夫
- 会場内通路幅の十分な確保と、来場者導線の誘導化施工
- 出展社協力を得ての、会場内消毒体制の徹底
- セミナー会場での参加人数制限と座席距離の確保
- 看護体制の人員強化と専用室の確保
- 食事場所を屋外のみ限定して設置
- オープニングは会場入口のモニター映像投影にて主催者挨拶を実施
- 東京都「感染防止徹底宣言ステッカー」の取得と会場掲示

# 4年ぶりに東ホールでの 実展示会とWeb展の併催

## 概括

2022（令和4）年10月5日（水）から7日（金）の3日間にわたる第49回国際福祉機器展は、東京ビッグサイト東展示ホールに戻ることができ、出展社数も国内企業を中心に上向き、333社・団体となった。

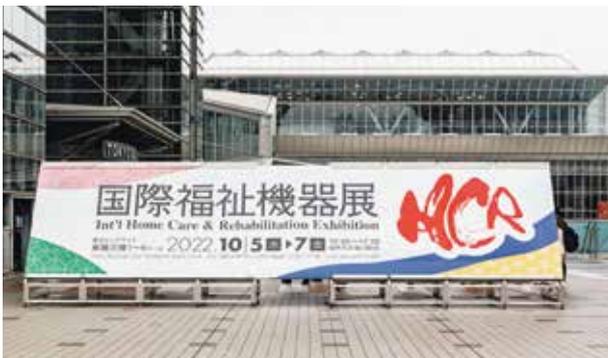
また、前年度に引き続き、国際福祉機器展 Web2022（以下、H.C.R.Web2022）を9月5日（月）～11月7日（月）の間開催し、オンライン上で342社・団体が出展し、1,899,396ビューの閲覧を得た。

実展示会への来場者数は前年よりも49,000人近く増加して88,512人にのぼった。分類では、一

般が28.9%（前年比7.1%減）で最も多く、福祉施設・老健施設16.0%（同5%増）、販売業15.4%（同2.6%減）、製造業12.3%（同1.7%減）在宅サービス12.1%（同3.1%増）の順となり、福祉施設等関係者の来場が復調した。

オープニングセレモニーでは、羽生田俊厚生労働副大臣の来賓代表挨拶をいただいた。

また、運営にあたっては前年度の感染症防止対策をふまえ、必要な対応を継続した。入場人数管理のための各展示ホール入退場時のチェック、来場者の食事可能場所を明確に区分けするなどの工夫を加えて実施した。



H.C.R.2022開催



羽生田 俊厚生労働副大臣 来賓挨拶



会場内の様子



清家 篤全国社会福祉協議会会長 主催者挨拶

## H.C.R.2022 出展

### 実展示会

- (1) 会期：2022年10月5日(水)～7日(金)
- (2) 会場：東京国際展示場「東京ビッグサイト」  
東展示ホール1～6
- (3) 主催：全国社会福祉協議会  
保健福祉広報協会
- (4) 来場者数：88,512人
- (5) 出展社数：333社  
(海外16社：アメリカ6、オーストラリア1、オランダ2、スウェーデン1、台湾2、中国1、デンマーク1、ドイツ2、国内326社)

海外からの入国については、新型コロナウイルス対策のため、入国者健康確認システム (ERFS / 厚生労働省・入国者健康確認センター運営) による登録の必要性もあり、海外からの出展社は16社に留まった。

関連して、海外からの出展社誘致に長年協力いただいていたベン・ラスムセン氏(デンマーク)、トム・ボーチャーディング氏(米国)は今回をもって退任となり、後任者へとその任を引き継ぐこととなった。



左からベン氏、トム氏

### Web展示会

- (1) 会期：9月5日(月)～11月7日(月)
- (2) 閲覧数：1,899,396ビュー

- (3) 出展社数：342社(実展示会出展社を含む)
- (4) その他：デジタル媒体による福祉機器情報入手の利便性の高まりにより、従前より作成していた「福祉機器ガイドブック」のもつ機能をWebに組み入れて、アクセスや検索機能を一層向上させるかたちで情報提供を継続する方向に切り替えた。

#### 15回出展感謝状贈呈企業(海外1社 国内10社)

1	(株) EMシステムズ
2	KAZEN WLD(株)
3	Guldmann Gmb(ドイツ)
4	(株) ケアマックスコーポレーション
5	積水ホームテクノ(株)
6	(株) テレウス
7	東京体育機器(株)
8	(公社) 日本理学療法士協会
9	(株) ハイテックシステムズ
10	(有) フジオート
11	(株) ライフリング

※社名五十音順/アルファベット順

### 特別企画

#### デンマークの医療・介護分野のデジタル活用をテーマに

人生100年時代を見据え、わが国における介護・フレイル(虚弱)予防、生活支援がますます重要課題となっていることをふまえ、社会保障の観点から課題を解消していく医療・介護の体制づくりのあり方について国際シンポジウムとして考察を行った。デンマークから専門の研究者を招き、医療・介護の体制づくりについて学んだ。

H.C.R.Web2022にてアーカイブ配信も行った。

実開催日時：10月6日(木) 13:00～15:00

テーマ：ヘルスケア・イノベーションを創る～医療・介護の融合と社会連帯による実現～

講師：ナンナ・スコヴゴール氏(デンマーク全国自治体連合社会・健康・高齢者政策担当部門長)

猪熊律子 氏 (読売新聞東京本社編集委員)

チューター :

塚田典子 氏 (日本大学商学部教授)

- ・ 筋電位電動車いすコントローラ WH1 (システムデザイン・ラボ/北陸大学 服部研究室)
- ・ SAT (仮称) /聴覚視覚発話刺激に対応した言語機能支援アプリケーション (シスネット (株))
- ・ 透明ディスプレイモニタ RaelclearTM (レルクリア) ((株) ジャパンディスプレイ)



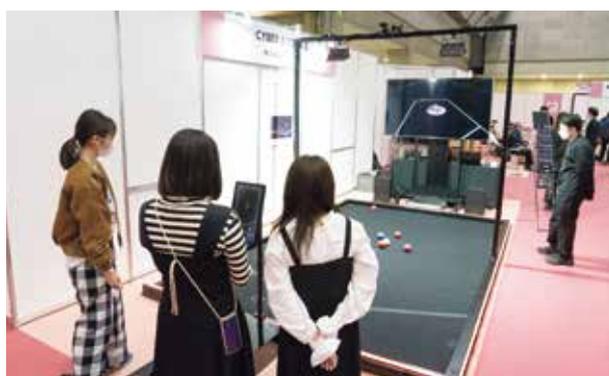
ナンナ・スコヴゴール 氏 (デンマーク)



猪熊律子 氏



デンマークの医療福祉ICT情報を共有



## H.C.R. セミナーは17本 34プログラムに重層化して開催

国際シンポジウムとともにH.C.R.セミナー、その他主催者企画も実開催に戻り、会場において3日間にわたり、展開した。H.C.R.セミナーは17本34プログラムに及んだ。とくに「福祉機器 選び方・使い方セミナー」には延べ874人が、「身近なICT活用講座」には延べ526人がそれぞれ参加した。

### 1. 福祉機器開発最前線

ふくしの未来に会いに行こうをコンセプトに、デモンストレーション会場とプログラムも用意し、以下の8点を紹介した。

- ・ Qolo 起立リハビリモデル/モビリティモデル (Qolo (株))



福祉機器開発最前線は「ふくしの未来に会いに行こう」をコンセプトに

- ・ ワードクラウド・ミーティング (筑波大学 デジタルネイチャー研究室 / xDiversity / NTT コミュニケーションズ (株))
- ・ VR 旅行 / VR 吹き矢 (一般社団法人デジタルステッキ / 東京大学先端科学技術研究センター 身体情報学分野)
- ・ 視覚障がい者の歩行アシスト機器「seeker」 ((株) マリス creative design / 国立大学法人九州工業大学 / (株) マクニカ / NTT コミュニケーションズ (株))
- ・ CYBER BOCCIA S ((株) ワントウーテン)

※社名五十音順

## 2. 子ども広場

協力をいただいていた横浜市総合リハビリテーションセンターに加え、東京都の運営協力を得て、親子が参加して試せる子ども向けの福祉機器の常設総合展示や製品説明、デモンストレーション等を行った。

とくに、学習機器やコミュニケーション機器に関する紹介を拡充させ、

- A. 「伝える・伝わる」コーナー…意思伝達装置・ツールのご紹介
- B. 「学ぶ・育む」コーナー…学習支援にかかわる機器の紹介・就学相談対応
- C. 「遊ぶ・楽しむ」コーナー…e-Sports 体験を実施した。

さらには、「デジタル機器等の活用事例セミナー」として好事例紹介やICT機器の活用方法に関する紹介等を実施した。



東京都の協力によるコーナーも設置

## 3. 高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー

「ご存知ですか？ 新たな日常に活かすアイデア・工夫用品展～コロナ時代の流儀～」をテーマに、高齢者や障害者が新型コロナウイルス禍において課題となる場面や困難さを感じる事例を取りあげ、それらの解消に導く日常のアイデア・工夫に富んだ製品やパネルを「消毒する」「測る」「伝える」場面に分類し、解説を交えて紹介した。

## 4. H.C.R. セミナー

「地域共生社会」「介護予防・ヘルスケア」「福祉機器 選び方・使い方」「身近なICT活用講座」を主テーマとする4会場に分け、下記のとおり開催した。

### ① 福祉機器、福祉サービスの利用者・家族セミナー (一般向け)

#### A. 福祉機器 選び方・使い方セミナー

従前のプログラムの中で、福祉車両編では田中亮造 氏 (目白大学保健医療学部理学療法士学科講師) とともに小林秀信 氏 (国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局) の協力を得て実施した。

また、同セミナーが20周年を迎えることから、「記念セッション～福祉機器の変遷と未来を展望する～」を下記のスピーカーの協力を得て開催した。

登壇者：堀家京子 氏 (公益財団法人 武蔵野市福祉公社作業療法士)

田澤英二 氏 (日本義肢士装具協会名誉会員)

井上剛伸 氏 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所福祉機器開発部部長)

中村美緒 氏 (厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室福祉工学専門官)

司 会：加島 守 氏 (高齢者生活福祉研究所 所長 / 理学療法士)

なお、デジタル媒体による福祉機器関係情報入手の利便性の高まりにより、従前より作

成していた同セミナーの副読本は、Webにおいて、入手したいカテゴリーの情報を集中選択して簡易に閲覧し、また無料ダウンロードして使用できるかたちへと切り替えた。

B. 「医療的ケア児と家族支援のこれから」

講師：高橋昭彦氏（認定NPO法人うりずん理事長）



選び方・使い方セミナー 20周年記念セッション

C. 「障害者の権利の一層の実現と社会参加の促進のために～新たな段階に向けた道筋を描く～」

講師：野澤和弘氏（植草学園大学副学長・発達教育学部発達支援教育学科教授）

D. 「e-Sportsを通じた障害者支援と自己実現」

講師：堀川宣和氏（星城大学経済学部講師）  
吉沢純生氏（日本福祉協議機構）

E. 「健康寿命を延ばすための高齢者自身による取り組み」

講師：青木勇氏（東京都東大和市シニアクラブ連合会「新成会」副会長）

相原勇二氏（バイシニア浦安（千葉県浦安市老人クラブ連合会）会長）

F. 「ふくし未来塾プレゼンテーション～福祉現場の次世代リーダーが描く未来像～」

講師：全社協ふくし未来塾修了生

山下興一郎氏（淑徳大学准教授）

G. 「高齢者のための手軽な料理講座～楽しく気軽にシニアご飯～」

講師：枝元なほみ氏（NPO法人ビッグシュー基金共同代表、一般社団法人チームむ

かご代表）

H. 「フレイル予防の新たな動向～人生100年時代の社会を見据えて～」

講師：飯島勝矢氏（東京大学高齢社会総合研究機構機構長／未来ビジョン研究センター）

I. 「2040年を展望した地域における介護・医療の包括的支援を探る」

講師：香取照幸氏（上智大学教授／未来研究所臥龍代表理事）

J. 「暮らしを守る高齢者権利擁護を知る～周辺法令と判例から学ぶ～」

講師：平田厚氏（明治大学専門職大学院法務研究科教授／日比谷南法律事務所 弁護士）

K. 「高齢者に必要な栄養を学ぶ～コロナ禍を超えての最新情報～」

講師：西村一弘氏（駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科教授）

L. 「アートと福祉の融合と可能性～異彩を、放て～」

講師：松田崇弥氏（(株)ヘラルボニー代表取締役社長）

M. 「楽しみながらリハビリ・健康体操セミナー」

講師：石田竜生氏（一般社団法人介護エンターテイメント協会代表）

N. 身近なICT活用講座2022

ア. 身近な情報機器を用いた障害のある人や高齢の人の生活支援～パソコンやスマートテクノロジーの利用～

講師：巖淵守氏（早稲田大学人間科学学術院）

イ. 障害のある人や高齢の人のためのスマホ・タブレット活用～最新のアクセシビリティ機能の紹介～

講師：山口俊光氏（新潟市障がい者ITサポートセンター、新潟大学自然科学系）

ウ. 見ることに困難のある人の生活に役立つ様々な支援製品と工夫



身近なICT活用講座風景

講師：山口俊光氏(同上)

エ. 聞こえに困難のある人に役立つ様々な道具と工夫～身近にある機器の活用～

講師：志磨村早紀氏(東京大学先端科学技術研究センター)

オ. AI・DX時代の福祉と生活支援～最新ICTの紹介とその活用～

講師：巖淵守氏(早稲田大学人間科学学術院)

カ. 生活を支援する技術利用の新たな可能性～身近な支援技術からeスポーツ、ドローン利用などの話題まで～

講師：田代洋章氏(一般社団法人日本支援技術協会)

キ. 学校や職場における障害や病気を抱える人への支援とテクノロジー利用

講師：近藤武夫氏(東京大学先端科学技術研究センター)

ク. 障害のある人・高齢の人へのオンラインサポートや3Dプリンターによる地域支援

講師：渡辺崇史氏(日本福祉大学健康科学部)

## ② 福祉施設・在宅サービス事業所役職員講座の開催

A. 「組織を変える福祉現場のリーダーシップとは～魅力的な福祉の職場づくり～」

講師：佐々木炎氏(NPO法人ホッとスペース 中原代表)

B. 「農業を介した持続可能な地域共生社会へのアプローチ」

講師：中村隆一郎氏(社会福祉法人白鳩会理事長)

## ③ 福祉機器関連企業・団体関係者講座の開催

A. 「地域社会に貢献する企業のあり方」

講師：新宮歩氏(株式会社とくし丸代表取締役CEO)

## 5. H.C.R. 報告映像の特別制作

H.C.R.2022実展示出展社の協力を得て、福祉機器の実展示会における有効性についてインタビューを実施し、報告映像としてまとめ、Webで公開した。

## 6. その他、実展示会として復元、新設した主催者企画

- 「もっと知ってほじょ犬」

- 「セルフカフェ」

(障害者就労支援事業所協力による)

- 「H.C.R.2023 50周年PRコーナー」



東京ビッグサイト北コンコースの入場ゲート

## クリエイティブな未来を拓く 50周年記念開催

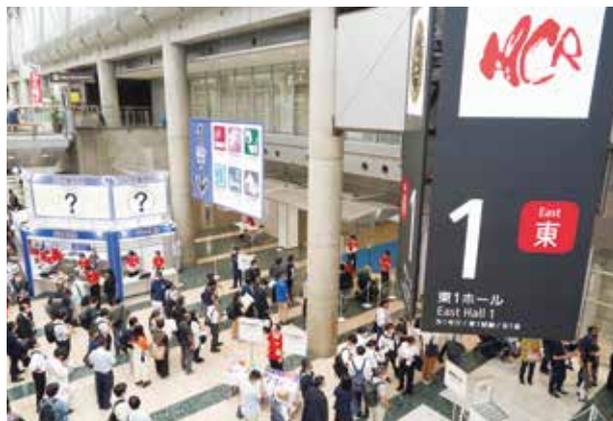
### 概括

2023(令和5)年9月27日(水)から29日(金)の3日間にわたる国際福祉機器展は、50周年記念として東京ビッグサイト東展示ホールにて開催した。出展社数も11か国2地域から375社・団体となった。

また、国際福祉機器展 Web2023(以下、H.C.R. Web2023)を8月28日(月)～10月30日(月)の間開催し、オンライン上で379社・団体が出展し、1,983,956ビューの閲覧を得た。

実展示会への来場者数は前年よりも24,000人近く増加して113,139人にのぼり、新型コロナウイルス禍前の2018年水準に戻った。

分類では、一般が28.6%(前年比0.3%減)で最も多く、福祉施設・老健施設15.7%(同0.3%減)、販売業15.5%(同0.1%増)、在宅サービス12.5%(同0.4%増)、製造業11.8%(同0.5%減)、病院・リハセンター5.3%(同0.4%増)の順となり、ほぼ前年同様の傾向が継続した。



東展示ホール入口



展示会場内の様子

また、初日27日に開催したH.C.R.50周年記念レセプションには、武見敬三厚生労働大臣ならびにデンマークの高齢者担当大臣メッテ・キルケゴール氏のご臨席と来賓挨拶をいただいた。

### H.C.R.2023 出展

#### 実展示会

- (1) 会期：2023年9月27日(水)～29日(金)
  - (2) 会場：東京国際展示場「東京ビッグサイト」  
東展示ホール1～6および8
  - (3) 主催：全国社会福祉協議会  
保健福祉広報協会
  - (4) 来場者数：113,139人
  - (5) 出展社数：375社  
(海外30社：アメリカ5、オーストラリア1、オランダ2、スウェーデン2、デンマーク1、ドイツ1、イギリス1、イスラエル1、中国7、韓国1、台湾7、香港1、国内345社)
- なお、初の取り組みとして、海外からの初出展

社を対象とした「Start Up Global Zone」を設け、イスラエル、中国、韓国、台湾より8社が出展した。同ゾーン出展の特典として、出展料をおよそ2/3と設定するとともに、同ゾーン内に英語および中国語の通訳者を複数名配置し、必要に応じて来場者説明等の協力を得られるかたちとした。また、同ゾーン出展関係者限定で、日本の福祉機器市場に関する事前説明会を開催した（詳細後述）。

また、H.C.R.海外コーディネーターとして、当年よりトロール・ニールセン氏（デンマーク）、ヨルグ・バース氏（米国）に就任いただき、世界各国からの出展社誘致等に尽力いただくこととなった。

## Web展

- (1) 会期：8月30日(月)～10月30日(月)
- (2) 閲覧数：1,983,956ビュー
- (3) 出展社数：379社（実展示会出展社を含む）
- (4) その他：Webの新機能として新製品情報ピックアップやお気に入り登録機能を装備するなど、利便性を一層向上させるかたちで情報提供を継続させた。

### 50回出展特別感謝状贈呈企業（国内1社）

出展回数	出展社名
50	アビリティーズ・ケアネット(株)

### 40回出展特別感謝状贈呈企業（国内13社）

49	酒井医療(株)
49	パラマウントベッド(株)
48	(株)今仙技術研究所
48	スズキ(株)
48	ピジョン タヒラ(株)
47	パシフィックサプライ(株)
44	OG Wellness / オージー技研(株)
43	(株)アマノ
43	大邦機電(有)
41	(株)デベロ
41	日進医療器(株)
41	(株)松永製作所
40	(株)豊通オールライフ

### 30回出展特別感謝状贈呈企業（国内24社）

39	(株)いうら
39	(株)ウェルファン
39	(株)竹虎

39	フットマーク(株)
39	(株)ランダルコーポレーション
37	(株)カワムラサイクル
37	TOTO(株)
35	(株)イーストアイ
34	安寿/アロン化成(株)
34	昭和貿易(株)
34	シルバー新報(環境新聞社)
34	トヨタ自動車(株)
34	(株)ユーキ・トレーディング
33	(株)ケーブ
33	(株)星光医療器製作所
33	フランスベッド(株)
31	ウィズワン(株)
31	(株)コムラ製作所
31	シーホネンス(株)
31	(公財)テクノエイド協会
31	(株)ミキ
30	弘進ゴム(株)
30	東海機器工業(株) / 燦
30	矢崎化工(株)

※出展回数/社名五十音順/アルファベット順

### 15回出展感謝状贈呈企業（海外1社 国内9社）

アイリスチトセ(株)  
 (株)インタージェット  
 (株)キザキ  
 黒田(株)  
 東京パック(株)  
 日本セイフティー(株)  
 ペルモビール(株)  
 (株)南日本情報処理センター  
 ユーバ産業(株)  
 RIFTON EQUIPMENT(米国)

※以上、社名五十音順/アルファベット順

※上記出展回数には、福祉機器 web2020 への出展も含まれます。

## 特別企画

### 欧米の福祉機器最新動向を共有する 国際シンポジウム

H.C.R.50周年記念として、欧州、米国、日本といった世界規模での福祉機器開発・販売の現状と今後の可能性を探る国際シンポジウムを開催

した。

なお、H.C.R.Webサイトにてアーカイブ配信も行った。

実開催日時：9月28日(木) 13:00～15:00

テーマ：世界の福祉機器を一望する～オランダ、デンマーク、米国、日本のいま～

#### 【第1部】基調講演

～オランダ福祉市場の発展とトレンド～

講師：ピーター・テルプストラ氏 (オランダ王国大使館 経済・気候 公使参事官)

#### 【第2部】エリアレポート

～福祉機器開発・販売市場の現状と今後の可能性～

講師：マッツ・ピアリング・ラ・クール氏 (デンマーク政府保健局高齢者・認知症担当ディレク

ター)

モルテン・ラスムセン氏 (Danish Care CEO /デンマーク)

ヨルグ・バース氏 (北米地区担当H.C.R.海外コーディネーター / USA)

松永紀之氏 ((株)松永製作所代表取締役社長)

田澤英二氏 (保健福祉広報協会理事 / 進行役兼務)

## H.C.R.50周年を記念してのレセプションを開催

開催初日の27日(水)17時15分～18時30分の間、東展示ホール8内の特設会場にてH.C.R.50周年を記念してのレセプションを開催した。

主催者挨拶を2023年6月に就任した村木厚子全国社会福祉協議会会長が行い、続いて来賓挨拶として武見敬三厚生労働大臣ならびにデンマークの高齢者担当大臣メッテ・キルケゴール氏から祝辞をいただいた。

その後、古都賢一保健福祉広報協会理事長の乾杯発声により、約250人が懇親を深めた。

さらに、保健福祉広報協会顧問であり、長年H.C.R.事務局として尽力をいただいた松寿 庶氏に記念スピーチをいただいた。

その後続いて、50回出展特別感謝状贈呈として、アビリティーズ・ケアネット社代表取締役社長の伊東弘泰氏に感謝の盾が贈られた。

H.C.R.50年の歴史を振り返る記念映像(約5分)を会場ステージスクリーンにて上映した。

また、前年度までH.C.R.海外コーディネーターをつとめたベン・ラスムセン氏(デンマーク)およびトム・ボーチャーディング氏(米国)も来賓として招待した。

「H.C.R.50周年アニバーサリープラザ」では、50年を振り返ることができる年表を25mにわたって、各回のビジュアルデザインポスターとともに掲示した。50年の福祉制度や社会経済の変化を受け止めながらH.C.R.の歴史を振り返ることができる貴重な機会を提供した。



ピーター・テルプストラ氏  
(オランダ)



マッツ・ピアリング・ラ・クール氏  
(デンマーク)



モルテン・ラスムセン氏  
(デンマーク)



ヨルグ・バース氏  
(米国)



松永紀之氏



田澤英二氏

## 新時代を創るファッションショー「NextUD JAPAN 2023」を開催

障害や年齢、性別等に関係なく、だれもおしゃれを楽しめるNext Universal Design (NextUD) を発信するファッションショー「NextUD JAPAN 2023」を、一般社団法人日本障がい者ファッション協会のプロデュースで開催し、会場に集まった600名超の参加者を湧かせた。

NextUD JAPAN 2023の前半となるトークショーでは、冒頭、日本障がい者ファッション協会の3名による衣装解説やNextUDに込めた想いについて、コメントツールを用いた会場参加型の進行ですすすめられた。その後、一般社団法人WITH ALS代表の武藤将胤氏と日本障がい者ファッション協会代表理事の平林景氏によるスペシャルトークセッションが行われた。

後半は、NextUDの衣装を身にまとったモデルがランウェイを歩き会場を沸かせた。スチールモデルやランウェイモデルは、一般応募267名から選出した12名。経験や障害の有無、年齢等も様々で、なかにはオランダから参加したモデルもあり、NextUDの概念や衣装をさらに際立たせるメンバーとなった。

製作された衣装は、立位でも着座でも着られる

服や、まひや身体の左右差があっても自分の身体の特徴にあわせてオンとオフのカスタマイズができる服など、ファッション性とデザイン性の両方を兼ね備えた、まさにNextUDそのものを具現化した10ルックが登場した。

また、H.C.R.2023出展企業にも協力いただき、先駆的かつ未来を感じさせるデザインの車いすやつえなどの福祉機器がランウェイ上に彩りを添えた。

今回のショーは、APFBB (フランス通信社) やBildなどの海外主要メディアや、NHKをはじめとする複数の新聞やTV、ネットニュースなどの様々な媒体に取り上げられ、国内外問わず多くの関心が集まった。



NextUD JAPAN2023トークショー



さまざまなNextUDファッション



※その他の写真はP.108～109に掲載

## 50周年ならではの 多層な主催者企画の展開

### 1. 福祉機器開発最前線

以下の10点を紹介した。

- ・以心伝心(志エンボディ(合)／愛媛大学)

- ・ FEEL TECH® ((株) NTTドコモ)
- ・ VUEVO マイク&アプリケーション(ピクシーダ  
ストテクノロジーズ(株))
- ・ CareWiz トルト((株) エクサホームケア)
- ・ サイボーグ義手プラットフォーム((株) Mu-  
BORG / 国立大学法人電気通信大学 / 横浜国立  
大学 / 東京理科大学)
- ・ 見える補聴器((株) Spacial)
- ・ 視覚障がい者向け歩行ナビゲーションシステム  
「あしらせ」((株) Ashirase)
- ・ Futto((株) YAMADA)
- ・ Hineru(ハイネル) HineruChair(ハイネルチェ  
ア) ((株) コボリン)
- ・ Hapbeat(Hapbeat(合))

なお、これらの選定にあたっては、厚生労働省  
障害者自立支援機器等開発促進事業の採択結果  
からの情報も参考とした。

### 2. エンジョイアクティブゾーン“Gotcha!”

パラスポーツ等の魅力や楽しさを発信すること  
を目的に、ボッチャ、車いすラグビー、パラロー  
イング、バリアフリー e-sports、CYBER Sports  
(CYBER WHEEL、CYBER BOCCIA)、義手・  
義足体験を実施した。また、コーナー全体の監修  
はパワーリフティング選手の三浦 浩氏にご協力  
いただいた。

体験コーナーのほかにも、ゾーン中央にステー  
ジを設け、パラリンピアンやプロ選手、選手を支  
える専門職などによるトークショーを行った。2  
日目には来場者や車いすユーザーと開発・研究  
者による、夢の車いす創造に向けたワークショッ  
プも開催し、共創の空間も演出した。

さらに、各界の著名人や有名パラアスリートな  
ど、総勢11名からH.C.R.50周年によせたメッセ  
ージをいただき、トークショーエリアのスクリー  
ンにて放映した。

※主な写真はP.110に掲載

エンジョイアクティブゾーン“Gotcha!”

【全体監修】三浦 浩 氏 (パワーリフティング選手)

27日	<p><b>オープニング</b>                  あいさつ：三浦 浩 氏                  オープニングアクト①：森圭一郎 氏 (シンガーソングライター)                  オープニングアクト②：志穂美悦子 氏 森圭一郎 氏</p>
	<p><b>人生100年どう生きる！-心とカラダの調和-</b>                  三浦 浩 氏 (パワーリフティング選手)                  志穂美悦子 氏 (花 創作家)</p>
28日	<p><b>本気で遊べば、明日は変わる。</b>                  加藤大貴 氏 ((株) ePARA 代表)                  鳥越 勝 氏、長野 僚 氏、北村直也 氏 (パラ e-sports 選手)</p>
	<p><b>夢の車いす創造ワークショップ (運営：(株) ePARA)</b>                  [第1部] 各開発担当者の取り組み紹介                  発表：トヨタ自動車 (株)、慶応義塾大学工学部                  高橋研究室 (Humonii)、(株) メルカリ</p>
	<p>[第2部] 公開ワークショップ                  ワークショップ1：車いすの「今」を考える                  ワークショップ2：車いすの「未来」を考える                  出演：ePARA ユナイテッド                  ファシリテーター：早川 公 氏 (大阪国際大学 准教授)</p> <p>[第3部] パネルディスカッション・まとめ                  出演：トヨタ自動車社 (株)、慶応義塾大学工学部                  高橋研究室 (Humonii)、(株) メルカリ                  ファシリテーター：早川 公 氏 (同上)</p>
29日	<p><b>パラリンピアンを支える技術と選手との絆</b>                  藤田悠介 氏 (鉄道弘済会 義肢装具士)                  湯口英理菜 氏 (パラ陸上選手)</p>



エンジョイアクティブゾーン“Gotcha!” 開幕



パラスポーツアスリート等トークショー



eスポーツアスリートトークショー



義足体験コーナー

- 体験コーナーと協力団体
  - ・ポッチャ体験：日本ポッチャ協会 / (株) プラミン
  - ・車いすラグビー体験：D-beyond
  - ・パラローイング体験：(株) アドマーニインターナショナル
  - ・バリアフリー e-sports 体験：(株) ePARA / 長屋宏和 氏 (レーサー)
  - ・CYBER Sports 体験：(株) 1→10 (ワントゥーテン)
  - ・義手・義足体験：(公財) 鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター
- メッセージをいただいた皆様 (50音順)
  - 稲川淳二 氏 工業デザイナー・怪談家
  - 宇都宮隆 氏 TM NETWORK
  - 岡村孝子 氏 シンガーソングライター
  - 小澤綾子 氏 筋ジストロフィーを抱え歌うシンガー
  - 国枝慎吾 氏 元プロ車いすテニスプレーヤー
  - 駒崎 茂 氏 リオパラリンピックパラローイング日本代表、  
栃木県障害者スポーツ協会会長
  - 志穂美悦子 氏 花 創作家
  - 島川慎一 氏 車いすラグビー選手 BLITZ 所属
  - 杉村英孝 氏 火の玉 JAPAN ポッチャ日本代表、東京パラリンピック金メダリスト
  - 土田和歌子 氏 車いすアスリート
  - 三浦 浩 氏 パワーリフティング選手

### 3. いのち輝くアート展

(1) フクシ×デザイン＝可能性～産官学福の  
共創で社会をつなぐ～

Produced by SHIBUYAFONT

デザインを通じて産官学福が連携し、作品を超えて社会を作りあげていくという(一社)シブヤフォントの取り組みについて、作品や製品の展示とともに紹介した。アーティストの原画を学生がフォント・パターン化し企業が製品化するというシブヤフォントの取り組みの流れを、色鮮やかな垂れ幕等の作品が一際来場者の目を引く展示となった。

(2) 金澤翔子展 書と生命

世界で活躍されている書家、金澤翔子 氏の「共に生きる」「心に光を」等の作品計5点を会場内で展示・紹介した。

初日の9月27日(水)には、金澤翔子 氏に席上揮毫(書の実演)により迫力ある「飛翔」の文字を描き、金澤氏の書がもつエネルギーを体感する機会となった。

※主な写真はP.111に掲載

### 4. 「みんなの会議」伝え・伝わる工夫展

障害や年齢に関わらず誰もが参画でき、伝える伝わるを可能とする会議を実施するためのコミュニケーション支援機器や工夫等について紹介した。

とくに、企業に勤めるさまざまな障害のある登壇者の協力のもと、3日間にわたり計9回の実演を交え、さまざまな身近な生活上のテーマ「コンビニ」「エンターテイメント」等について手話通訳や要約筆記で情報を場内全体で共有しつつ、楽しさいっぱいに考える機会とし、毎回定員を超える来場者を得た。

議長：春風亭昇吉 氏(落語家／一般社団法人落語ユニバーサルデザイン化推進協会代表理事)

登壇者(会議参加者)：

企業に勤務する視覚障害、身体障害のある社員と支援員、その他聴覚障害のある人 延べ12名

展示紹介品：

筆談器、対話支援スピーカー、骨伝導集音機、遠隔指点字器、文字情報点字変換器、文字拡大鏡、字幕表示式透明パーテーション、文字起こしアプリ、触知模型・図 など  
(企画運営協力：共用品推進機構、NTTクラリティ(株))

※主な写真はP.114に掲載

## いっそう多分野化したH.C.R.セミナー

国際シンポジウムとともにH.C.R.セミナー、その他主催者企画も実開催に戻り、会場において3日間にわたり、展開した。とくに「福祉機器 選び方・使い方セミナー」には延べ1,209人が、「身近なICT活用講座」には延べ785人がそれぞれ参加した。

### 1. H.C.R.セミナー

「プレミアムセミナー」「福祉機器 選び方・使い方セミナー」「身近なICT活用講座」「セミナー Plus One」の4会場に分け、下記のとおり開催した。

#### ① 福祉機器、福祉サービスの利用者・家族セミナー(一般向け)

A. 福祉機器 選び方・使い方セミナー  
テーマと講師

※新規講師と所属等の変更があった場合のみ肩書を記載。

・車いす

講師：堀家京子 氏

・トイレ・排泄用品

講師：牧野美奈子 氏



福祉機器 選び方・使い方セミナー全景

・杖・歩行器等補助用品

講師：加島 守 氏

・入浴機器

講師：加島 守 氏

・ベッド

講師：市川 洸 氏

・リフト等移乗用品

講師：市川 洸 氏

・住宅改修

講師：橋本美芽 氏 (東京都立大学大学院人間健康科学研究科準教授)

・福祉車両

講師：水谷宣昭 氏 (国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局第二自立訓練部肢体機能訓練課自動車訓練室)

田中亮造 氏

・福祉に役立つ情報機器・電子機器

講師：巖淵 守 氏

・自助具

講師：岡田英志 氏

また、専門職向けセミナーとして「介護・福祉サービスと医療・看護・リハビリの専門性との連携」を稲川利光氏 (令和健康科学大学リハビリテーション学部学部長・教授) を講師にお迎えして実施した。

同セミナーの副読本は、Webにおいて入手したいカテゴリーの情報を集中選択して簡易に閲覧し、また無料ダウンロードして使用できるかたちを踏襲するとともに、H.C.R.2023会場内限定としてテキスト化し販売した。

B. プレミアムセミナー「多世代交流・コミュニティケアを通じた住民共創のまちづくり～Fujisawaサステイナブル・スマートタウンの取組み～」

講師：志波崇裕 氏 (パナソニックオペレーションズエクセレンス株式会社ビジネスソリューション本部スマートシティ推進部SST推進課)

C. 身近なICT活用講座2023

ア 身近な情報機器を用いた障害のある人

や高齢の人の生活支援－パソコンやスマートテクノロジーの利用－

講師：巖淵 守 氏 (早稲田大学人間科学学術院)

千葉慎二 氏 (日本マイクロソフト株式会社)

イ 障害のある人や高齢の人のためのスマホ・タブレット活用－最新のアクセシビリティ機能と関連製品の紹介－

講師：山口俊光 氏 (新潟市障がい者ICTサポートセンター、新潟大学自然科学系)

ウ 見えにくさを抱える人の生活に役立つ様々な支援製品と工夫

講師：山口俊光 氏 (同上)

エ 重度障害のある人の生活の工夫と機器の利用－役立つ道具選びのためのポイント－

講師：吉成亜実 氏 (AT2ED)

奥山俊博 氏 (東京大学先端科学技術研究センター)

オ AI時代の福祉と生活支援－最新ICTの紹介とその活用－

講師：巖淵 守 氏 (早稲田大学人間科学学術院)

カ 聞こえに困難を感じる人に役立つ様々な道具と工夫－身近にある機器の活用－

講師：志磨村早紀 氏 (東京大学先端科学技術研究センター)

キ 職場や学校における障害や病気を抱える人への支援とテクノロジー利用

講師：近藤武夫 氏 (東京大学先端科学技術研究センター)

ク 障害のある人・高齢の人への地域における支援とICT等の技術の活用

講師：渡 崇史 氏 (日本福祉大学健康科学部)

## ② 福祉施設・在宅サービス事業所役職員向けセミナー

A. プレミアムセミナー「利用者を大切にしたい福祉サービスとその質の向上の実現～求め

られる人材育成像～」

#### 基調報告

吉田昌司 氏 (厚生労働省社会・援護局福祉  
基盤課 福祉人材確保対策室長)

#### スピーカー

野澤和弘 氏 (植草学園大学 副学長・発達  
教育学部 発達支援教育学科 教授)

平田ルリ子 氏 (社会福祉法人慈愛会 清心  
乳児園 園長／全国乳児福祉施設協議会 会  
長)

湯川智美 氏 (社会福祉法人六親会 理事長  
※進行役兼務)

#### B. セミナー Plus One「法人・施設のICT活用 事例報告」

司会：廣江 晃 氏 (全国社会福祉法人経営者  
協議会ふくしDX推進特別委員長)

#### コメンテーター：

山口 純 氏 (株式会社ヤマグチ 代表取  
締役／工学博士)

事例1 (福) 佑啓会／千葉県

事例2 (福) 洗心福祉会／三重県

#### C. セミナー Plus One「ふくし未来塾プレゼン テーション～福祉現場の次世代リーダーが 描く未来像～」

講師：全社協ふくし未来塾修了生

山下興一郎 氏 (淑徳大学准教授)

### ③ 福祉機器関連企業・団体関係者向けセミナー

#### A. プレミアムセミナー「海外進出をすすめる 福祉機器企業の展開例」

#### 基調説明

南須原美恵 氏 (経済産業省 商務・サービ  
スグループ ヘルスケア産業課 医療・福祉  
機器産業室 室長補佐)

講師：中西敦士 氏 (トリプル・ダブリュー・ジャ  
パン株式会社 代表取締役)

高橋 立 氏 (株式会社FUJI ロボットソ  
リューション事業本部 技術開発部第5  
課)

#### B. セミナー Plus One「福祉用具法の30年～ 暮らしを支え、社会を拓く～」

講師：後藤芳一 氏 (一般財団法人 機械振興協  
会副会長)

山内 繁 氏 (特定非営利活動法人支援技  
術開発機構理事長)

安田勝紀 氏 (シルバー産業新聞 編集長)

司会：井上剛伸 氏 (国立障害者リハビリテー  
ション研究所 福祉機器開発部長)

なお、当該セミナーの開催にあたり、冒頭に、  
渡辺信彦 氏 (経済産業省 商務情報政策局 商務・  
サービスグループ 医療・福祉機器産業室長) お  
よび河野 健資 氏 (厚生労働省社会・援護局障害  
保健福祉部企画課自立支援振興室室長補佐) の挨拶  
をいただいた。

## 2. 高齢者ヘルスケアカレッジの開催

わが国における人生100年時代の到来に対し、  
介護予防やヘルスケアへの関心が高まっている  
状況をふまえ、主催者による新企画として「高齢  
者ヘルスカレッジ」を展開し、延べ304人が参加  
した。

#### ア 認知症バリアフリー社会～ともに創る暮らし と地域～

永田久美子 氏 (社会福祉法人浴風会 認知症  
介護研究・研修東京センター 研究部 副セ  
ンター長 (兼) 研究部長)

#### イ 楽しく気楽にシニアごはん♪ ※料理実演

枝元なほみ 氏 (料理研究家)

#### ウ 今日から始める！健康体操

石田竜生 氏 (株式会社おふとん 代表取締役)

#### エ おうちで簡単フレイル予防

山田 実 氏 (筑波大学 人間系 教授)

#### オ 解説！今さら聞けない介護保険のい・ろ・は

高野龍昭 氏 (東洋大学ライフデザイン学部生  
活支援学科 准教授)

#### カ すみれさんのわくわくインターネットライフ ～高齢者のためのデジタル活用術～

伊勢宏子 氏 (公益社団法人日本消費生活ア  
ドバイザー・コンサルタント・相談員協会  
(NACS) 東北支部 研修委員長)

#### キ 高齢者自身による健康のまちづくり～老人ク

### ラブの事例

池田隆明 氏(みらいふる鎌倉(公益財団法人  
神奈川県老人クラブ連合会)副会長)

水野 彰 氏(鳥取県老人クラブ連合会 副会長)

さらに、転倒事故・誤嚥、防災など事故防止のための情報提供ブースや、認知症相談ブースを設置した。

### ク 安心・安全な生活環境～知ろう、防ごう、高齢者の事故～

防災や転倒防止、入浴時事故、誤飲等に関する展示

(協力：東京消防庁)

### ケ 認知症相談窓口

(協力：浴風会病院 認知症疾患医療センター 東京)

## 「フォーラム」としての 参加・体験型企画もさらに充実

2023年度より福祉情報の総合的発信・提供の機能を高めるため、開催名称に「フォーラム」を加え、来場者の参加・体験型企画も一層充実させて開催する方針とした。

### 1. 子ども広場

横浜市総合リハビリテーションセンターならびに東京都の運営協力を得て、親子が参加して試せる子ども向けの福祉機器の総合展示や製品説明、ICT機器活用の好事例紹介を行うミニセミナー等を実施した。

なかでも、横浜市総合リハビリテーションセンターによる協力エリアでは、療育や福祉機器、子どもの住まい相談を実施するとともに、パンフレット「子どものリフト・吊り具 考え方と選び方」を新規作成し、広く配布した。

また、東京都の協力による機器紹介エリアでは次の3コーナーに分類し、行った。

- A. 「伝える・伝わる」コーナー…コミュニケーション時の困難を解決する機器等の展示
- B. 「学ぶ、育む」コーナー…学びを容易にするための支援機器の紹介等
- C. 「遊ぶ・楽しむ」コーナー…ゲームやe-Sports

### 等を体験

さらには、「デジタル機器等を活用した事例ミニセミナー」としてICT機器等を使って生活の困りごとを解決するための工夫を紹介した。

※主な写真はP.115に掲載

### 2. 世界の福祉機器情報コネクゾーン

世界各国の介護機器市場に関する現状やロボット介護機器をめぐる動向、今後発展の見込みのある福祉機器分野等といった最新情報を経済産業省等の協力のもと、パネル化して展示した。

対象国は、H.C.R.2023に出展しているデンマーク、イギリス、オランダ、ドイツ、スウェーデン、フィンランド、米国、中国、インドネシア、タイ、台湾の計10か国1地域。

また、海外企業が日本に福祉機器を輸入し事業展開を考える際のさまざまな情報についても併せて掲示した。

さらに、隣接した「Start Up Global Zone」に出展した海外からの初出展社を対象に「日本の福祉機器をめぐる現状」と題する説明会を開催した。講師は、後藤芳一氏(保健福祉広報協会評議員/日本福祉大学客員教授/日本生活支援工学会会長)が担当した。参加希望者は中国2社、台湾2社、イスラエル1社の計13人であった。

### 3. もっと知ってほじょ犬

障害のある人のパートナーである「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」の3種をデモンストレーションの実施も含め、補助犬に関する理解を深める場を設置した。



「もっと知ってほじょ犬」コーナーでの実演

(運営協力：日本身体障害者補助犬学会(同会のコーディネートにより日本介助犬協会、日本盲導犬協会、日本聴導犬協会の協力を得た))

#### 4. 福祉用具相談

「福祉用具相談～福祉機器・自助具のお困りごとはこちら!～」として、作業療法士等専門家が福祉機器の日常生活にかかる相談を行った。

あわせて自助具を多数展示したほか、新たに3Dプリンターを活用した自助具製品の紹介や、その場で自助具の制作ができる制作体験も実施した。

(協力：(一社)日本作業療法士協会(NPO)自助具の部屋)

#### 5. その他、実展示会として継続実施した主催者企画

##### ●「セルフショップ&カフェ」

日本セルフセンターおよび障害者就労支援事業所の協力による。なお、会場内の各企画をめぐる回遊性を確保するためのスタンプラリーへの協力も得た。

##### ●「被災地支援コーナー」

(協力：日本セルフセンター)

##### ●「福祉機器利用者アンケート」

#### 6. H.C.R.事前告知・報告映像等の特別制作

H.C.R.2023を開催するにあたり、50周年として特別に実施する主催者企画への出演者メッセージ等も含めた2分ほどの告知映像を作成し、H.C.R.Webページや、YouTubeにて公開し、来場者誘致に効を奏した。

さらには、H.C.R.50周年記念ならではの特別実施企画を中心にして編集した、約5分の記録報告映像をまとめ、YouTubeにて公開し、ふりかえりの機会とするとともに、次年度開催の予告を行った。

#### 7. H.C.R.アプリ機能の活用

会場内での利便性と回遊性の向上を目的にH.C.R.アプリを作成し、2万人を超える来場者にご利用いただいた。

アプリ内では、会場内マップと現在地のリンクや、セミナー開催前のプッシュ通知、スタンプラリーなど、H.C.R.をより快適に楽しんでいただくための機能が実装された。

#### 8. 記念オブジェ等の制作

50周年記念ロゴをH.C.R.事務局にて考案し、その記念オブジェをオープニングセレモニー会場や50周年アニバーサリープラザに設置して活用した。

さらに、それらのデザインを活かした記念Tシャツやトートバックを限定販売し、来場者のための記念品として貢献した。



50周年記念ロゴ

※H.C.R.2023の様子はP.105から掲載の「50周年記念写真展」にてご覧いただけます。



会場内での試乗・試用の様子